



SmartLog Pro®Manager

インストールガイド

DESCO ASIA

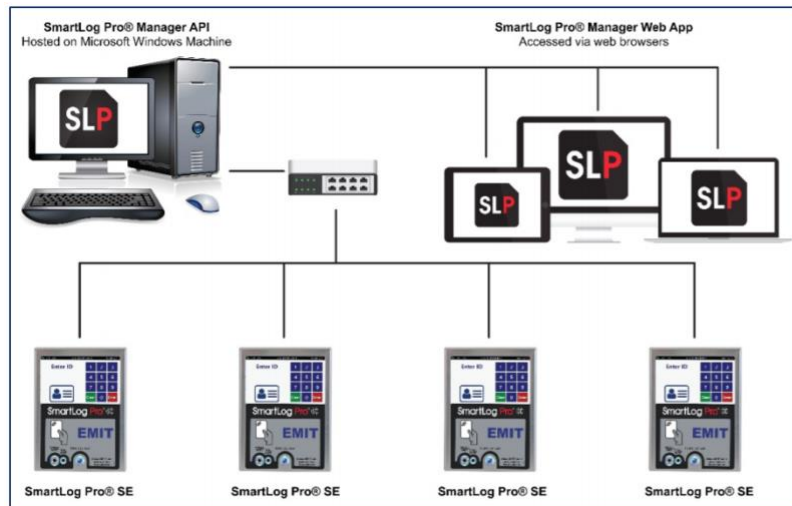
DESCO INDUSTRIES INC

| | |
|---|----|
| 概要..... | 1 |
| サーバーのインストール..... | 3 |
| 必要条件..... | 3 |
| IIS (インターネットインフォメーションサーバー) | 3 |
| デスクトップ OS (Windows 10) | 3 |
| サーバー OS (Windows Server 2016 英語版) | 6 |
| IIS 用の URL 書き換えモジュール | 7 |
| SQL Server Compact..... | 7 |
| SLP Config | 7 |
| インストール..... | 8 |
| SLP Backend..... | 8 |
| SLP Manager..... | 9 |
| 接続デバイスの構成..... | 9 |
| SLP Manager..... | 11 |
| 共通機能..... | 13 |
| リストビュー | 14 |
| リストタイトル | 14 |
| フィルタリング | 15 |
| リスト操作 (コマンド)..... | 16 |
| ページ割り..... | 16 |
| リストヘッダー..... | 16 |
| エンティティリスト..... | 17 |
| 名前 (コマンド) 列..... | 17 |
| 詳細ビュー..... | 19 |
| プレビュー..... | 20 |
| 履歴の編集..... | 20 |
| エクスポート | 21 |
| 共通のコントロール..... | 22 |
| オートコンプリート入力 | 22 |
| 日付/時刻入力..... | 23 |
| 管理者..... | 24 |
| 管理者..... | 24 |
| オペレーター..... | 25 |
| 部署、グループ、シフト | 26 |

| | |
|-----------------------|----|
| 休日の種類..... | 27 |
| メーリングリスト..... | 28 |
| ロケーション..... | 28 |
| SmartLogs の追加..... | 30 |
| ダッシュボード..... | 33 |
| レポート..... | 34 |
| アラート..... | 35 |
| オペレーターインポート..... | 36 |
| 自動オペレーターインポート..... | 39 |
| オプション..... | 42 |
| 言語の変更..... | 44 |
| ソフトウェア アクティベーション..... | 45 |

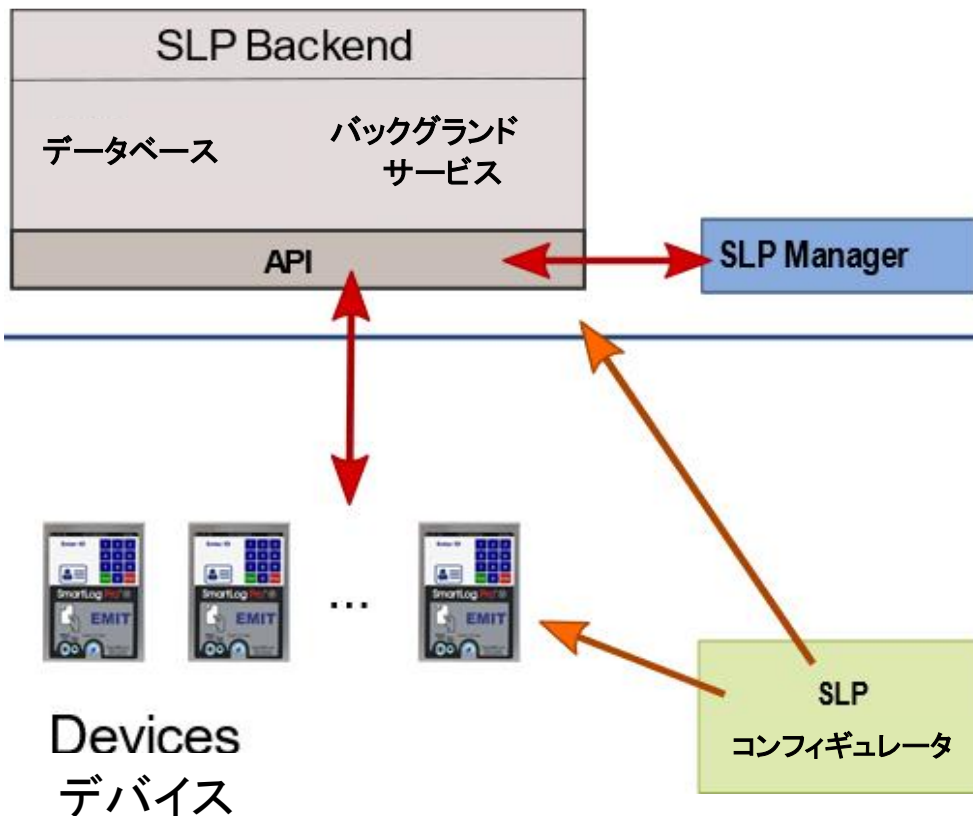
概要

SmartLogPro®(SLP) Manager は、SmartLogPro®SE テスターの制御、監視、管理用に設計された分散ソフトウェアシステムです。次の図は、最も基本的で一般的なシステムアーキテクチャが次のようになっていることを示しています。



ここでは、すべてのデバイスがサーバーソフトウェアを実行しているコンピューターと一緒にローカルネットワークに接続されています。

一般に、SLP には疎結合コンポーネントを備えたはるかに柔軟な構成があります。



SLP Backend はシステム全体の中核です。これには、他のすべてのコンポーネントが使用するシステムデータストア、バックグラウンド処理ロジック、パブリックサービスレイヤーが含まれています。SLP Backend は.NET Web アプリケーションとして実装され、Windows OS の IIS でホストされます。パブリックサービスは、Web API(JSON over HTTP(S))として実装されます。

SLP Manager は、管理、制御、監視、システム管理に使用されるメインシステムアプリケーションです。これは、SPA Web アプリケーション(Aurelia Framework を使用)として実装されます。厳密には必須ではありませんが、SLP Manager は SLP Backend と同じコンピューターでホストされます。他のすべてのシナリオ(ローカルイントラネット、VPN、クラウド)がサポートされていますが、SLP Manager がインターネット経由でパブリックにアクセスできることも標準です。

SmartLog Pro デバイス は単体で動作しますが、SLP に接続すると、API とリアルタイムで通信します。

SLP コンフィグレータ は、システムコンポーネントのインストール、構成、アップグレードに使用される特別なアプリケーションです。

SLP は次の目的で設計されています。

- 信頼性
- パフォーマンス
- 拡張性
- スケーラビリティ

サーバーのインストール

必要条件

IIS(インターネットインフォメーションサーバー)

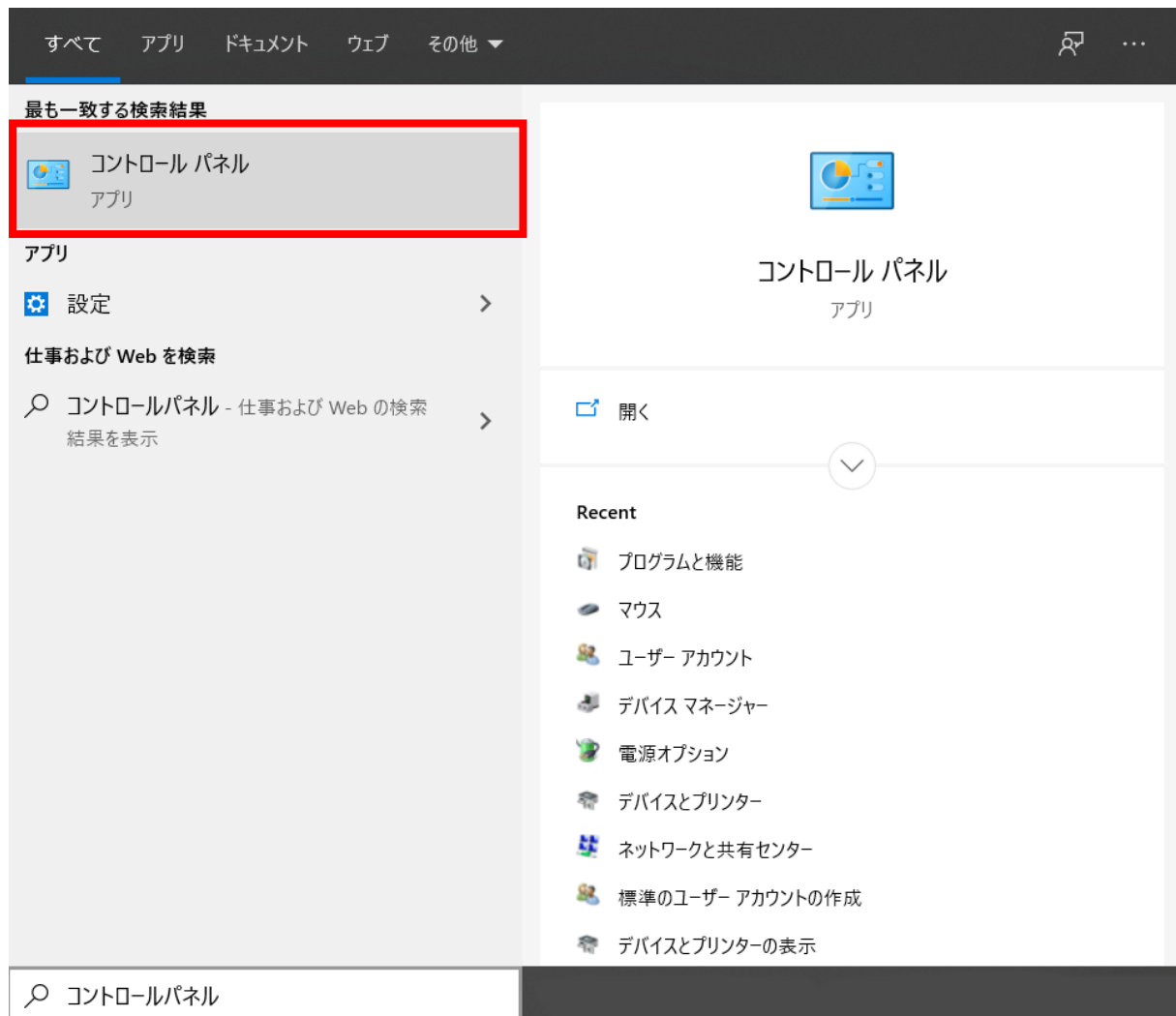
SLP Backend は、アプリケーションロジック全体をカプセル化する ASP.NET Web API として実装され、システムデータストア(データベース)の操作、レポートの生成、電子メールの送信などを行います。これらすべてを可能にするには、ターゲットマシン(サーバー)に Microsoft IIS がインストール(有効化)され、適切に構成されることが必要です。

デスクトップ OS (Windows 10)

Windows デスクトップシステムでは、IIS は[コントロールパネル]-> [プログラム]で有効になっています:

ステップ 1: コントロールパネルを開く

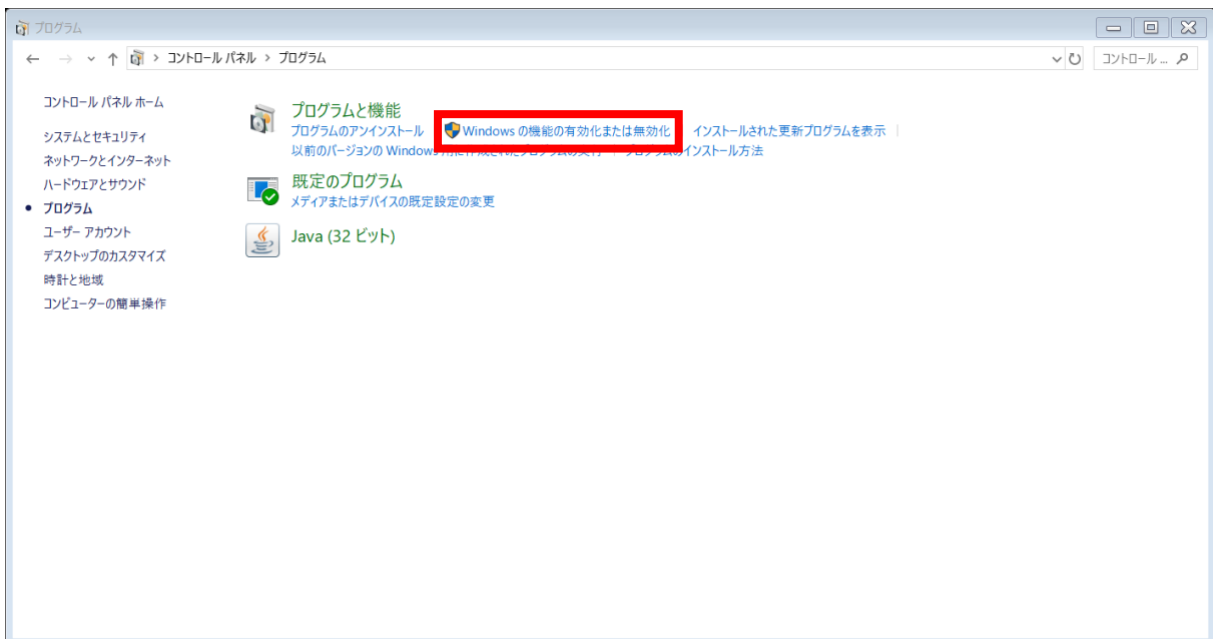
Windows 検索ボックスを使用する:



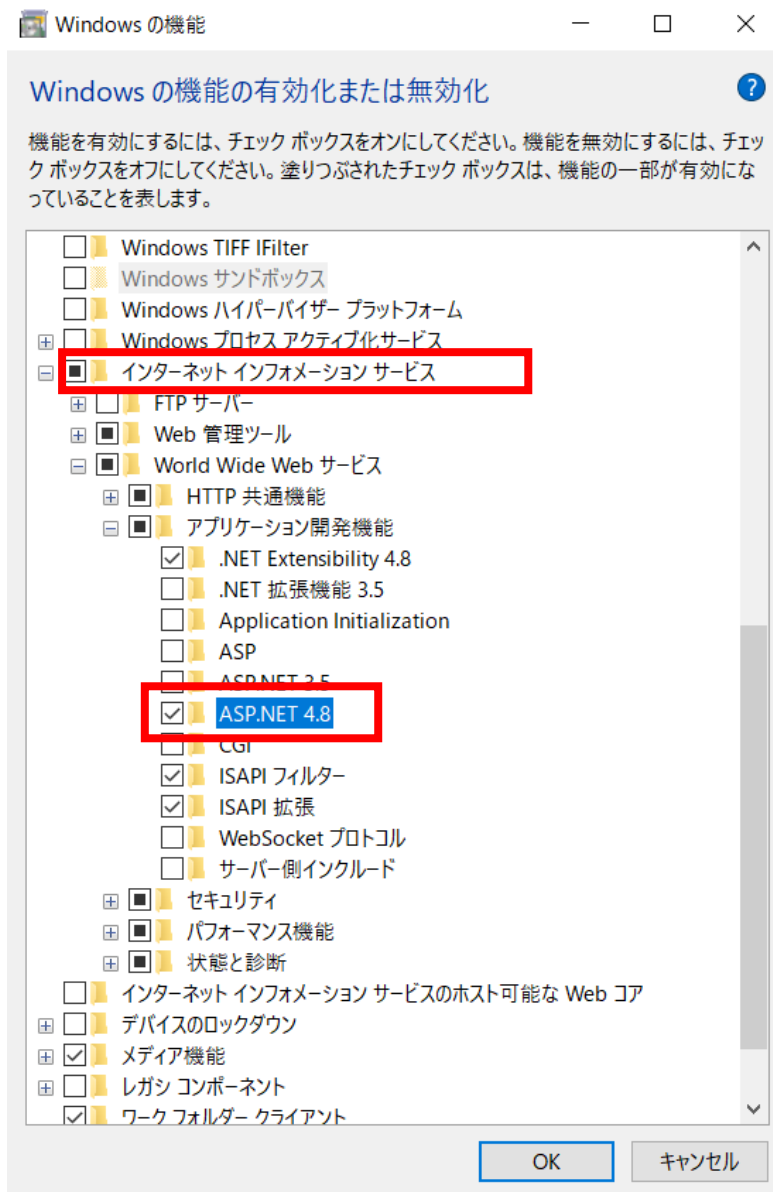
ステップ 2:[プログラム]をクリックします



ステップ 3:[Windows の機能を有効化または無効化]をクリックします



ステップ 4: インターネットインフォメーションサービスと ASP.NET4.8 を有効にする



- ・インターネットインフォメーションサービス (IIS) の左側にあるチェックボックスをクリックします (これにより、デフォルトのオプションが選択されます)
- ・IIS ノードを展開するには、そのチェックボックスの左側にあるプラス記号をクリックします
- ・World Wide Web サービスノードを展開 (プラスをクリック)
- ・アプリケーション開発機能を展開 (プラスをクリック)
- ・ASP.NET4.8 を選択 (チェックボックスをクリック)
- ・[OK]をクリックします

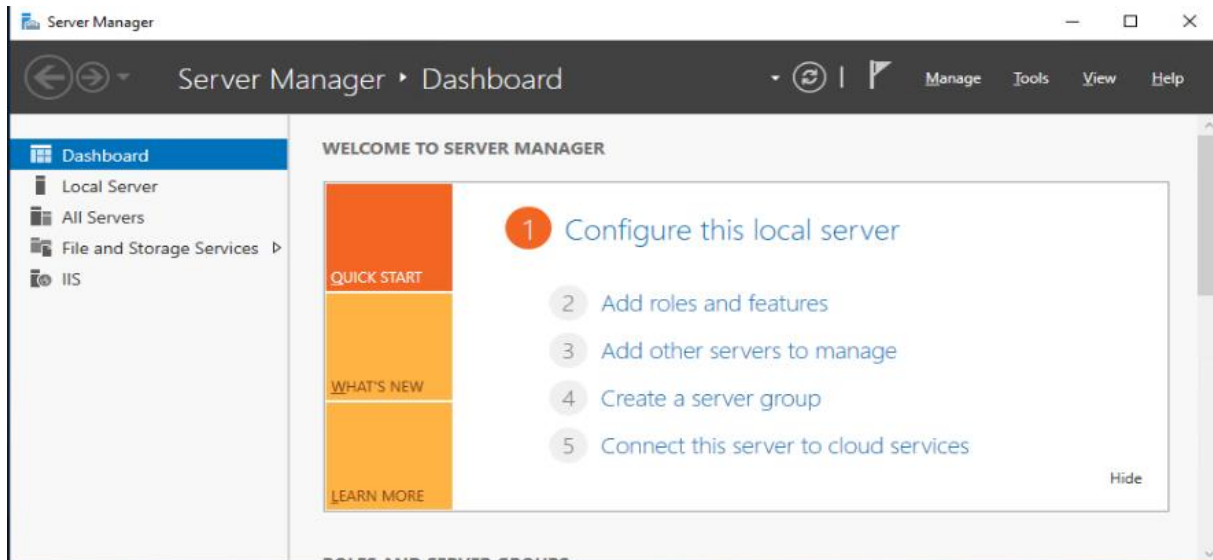
注意

IIS がデスクトップコンピュータにインストールされていない場合は、上記の手順に従ってください。すでにインストールされて有効になっている場合は、ASP.NET 4.8 機能が有効になっているかどうかを確認し、必要に応じて有効にしてください。

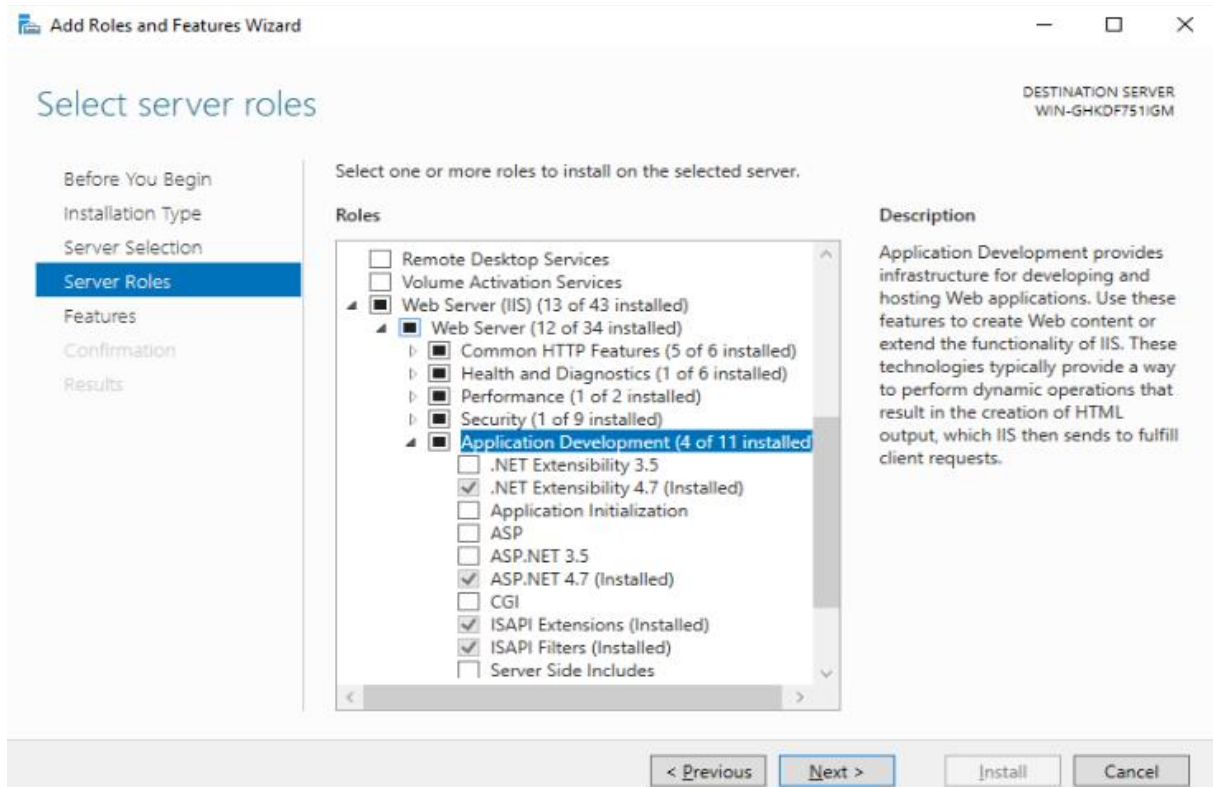
サーバー OS (Windows Server 2016 英語版)

Windows Server OS への IIS のインストール(有効化)は、Windows デスクトップ OS へのインストールと非常によく似ています(上記の詳細を参照)。

Server Manager からインストールを開始します



[Add roles and features]をクリックします。Web Server(IIS)を有効にし、アプリケーション開発で ASP.NET 4.7 を有効にします(IIS が既に有効になっている場合は、必要に応じて ASP.NET 4.7 を有効にします)。



IIS 用の URL 書き換えモジュール

IIS 用の Microsoft URL Rewrite Module 2.0 は無料で、インターネットからダウンロードできます。
<https://www.microsoft.com/web/handlers/webpi.ashx?command=getinstallerredirect&appid=urlrewrite2>

注意

URL 書き換えモジュールは、SLP Manager Web アプリケーションにのみ必要です。ターゲットマシンが SLP Backend のみをホストしている場合、このモジュールは必要ありません。

SQL Server Compact

SLP は、デフォルトで Microsoft SQL Compact データベースにデータを格納します。Microsoft から無料の公式ダウンロードを入手できます。

<https://www.microsoft.com/en-us/download/details.aspx?id=30709>

注意

データベースは SLP Backend にのみ必要です。ターゲットマシンが SLP Manager のみをホストしている場合、このダウンロードは必要ありません。

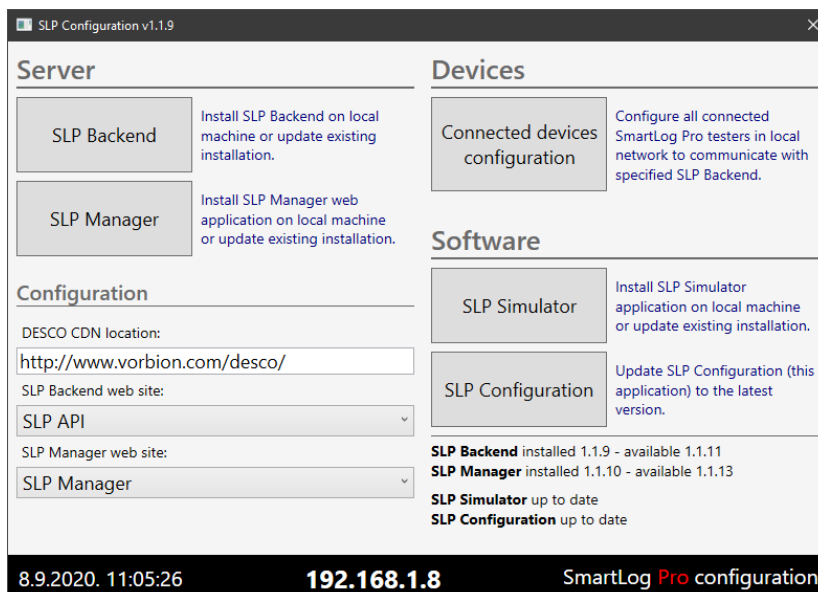
SLP Config

SLP Config は、SLP コンポーネントのインストール、構成、保守に使用されるアプリケーションです。ダウンロードリンクは、DESCO JAPAN の担当者に連絡ください。

- DESCO CDN から **ConfigSetup.msi** をダウンロードします
- ダウンロードしたセットアップアプリケーションを実行します

セットアッププログラムは、ローカルマシン(デフォルトではフォルダーC:/Desco/SlpConfig)に **SLP Config** アプリケーションをインストールし、デスクトップアイコンを作成します。

このアプリケーションは、インストールとシステムメンテナンスを大幅に簡素化するように設計されています(次の章の詳細を参照)。



インストール

すべての必要条件が満たされると(上記を参照)、SLP Config アプリケーションはサーバーをインストールするための迅速で簡単な方法を提供します。最も一般的なシナリオ(イントラネット、単一コンピュータ上のサーバーコンポーネント)用に設計されていますが、サーバーコンポーネントを別々のマシンに配置する、IIS を使用して作成された Web アプリケーションを構成するなど、より高度なシナリオで使用することもできます。

SLP Config は、新しいバージョンへのアップグレード、再構成、再インストールに適したツールでもあります。

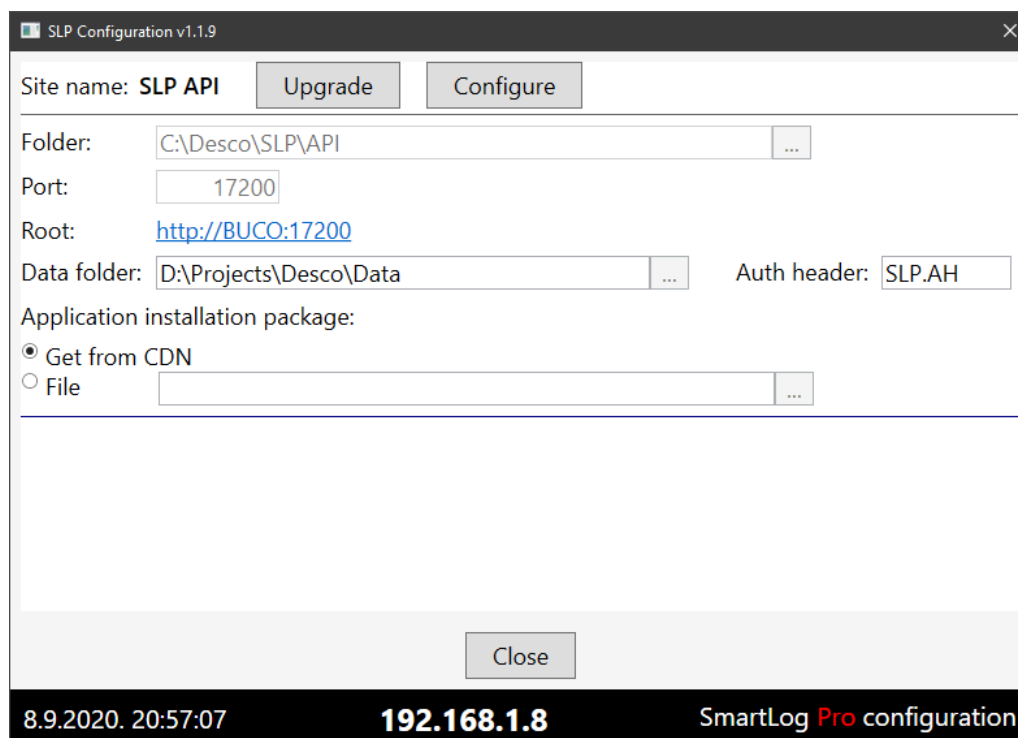
SLP Backend

SLP Backend をインストールするには、次の手順に従ってください。

1. 必要条件を確認します
2. SLP Config を開始します
3. SLP Backend ボタンをクリックします
4. インストールフォルダを選択します(C:/Desco/SLP/API を作成して下さい)
5. ポートを選択します(17200 がデフォルトです。それが不可能な場合にのみ変更してください)
6. データベースのフォルダーを選択します(C:/Desco/SLP/Data を作成して下さい)
7. [インストール]ボタンをクリックします

SLP Config は DESCO CDN からインストールパッケージをダウンロードし(これが設定されていることを確認してください。デフォルトは通常正常に機能するはずですが)、すべてをセットアップします。

インストールが終了したら、ルートリンクをクリックして、すべてが正常であることを確認します。ブラウザが開き、テキストで **"SLP API, © 2020. DESCO"** と表示されていればインストール完了です。



SLP Manager

SLP Manager のインストール前に SLP Backend をインストールすることをお勧めします。そうすると API ルートの場所を手動で入力する必要がなくなります。

SLP Manager をインストールするには、次の手順に従ってください。

1. 必要条件を確認します
2. SLP Config を開始します
3. (オプション) SLP Backend をインストールします(上記を参照)
4. SLP Manager ボタンをクリックします
5. インストールフォルダを選択します(C:/Desco/SLP/Admin を作成して下さい)
6. ポートを選択します(17205 がデフォルトです。それが不可能な場合にのみ変更してください)
7. API ルートを選択します(自動的に設定されますが、設定されていない場合は選択してください)
8. [インストール]ボタンをクリックします

SLP Config は DESCO CDN からインストールパッケージをダウンロードし(これが前の画面で正しく設定されていることを確認してください。デフォルトは通常正常に機能するはずです)、すべてを自動でセットアップします。

インストールが完了したら、ルートリンクをクリックして、すべてが正常であることを確認します。ブラウザは SLP Manager のログインページである必要があります(次章の SLP Manager の詳細を参照してください)。

SLP システムは、疎結合コンポーネントから構築されています。特に、Backend と Manager は、異なるコンピューター、さらには異なるドメインに配置されている場合があります。場合によっては、(異なるネットワークとドメインに)複数の Backend があり、単一の Manager を使用してそれらを「切り替える」こともあります。そのような場合、API ルートはデフォルトではなく、手動で入力する必要があります。たとえば、Backend (API) が `slp.mydomain.com` でホストされている場合、API ルートは <http://slp.mydomain.com/api> に設定する必要があります(/api が重要です)。

接続デバイスの構成

SLP インストールの最後のステップは、Backend と「通信」するように SmartLog Pro デバイスを構成することです。デバイスは設計上「プラグアンドプレイ」であり、SLP Config はサーバーの場所の初期構成のタスクを簡素化します

注意

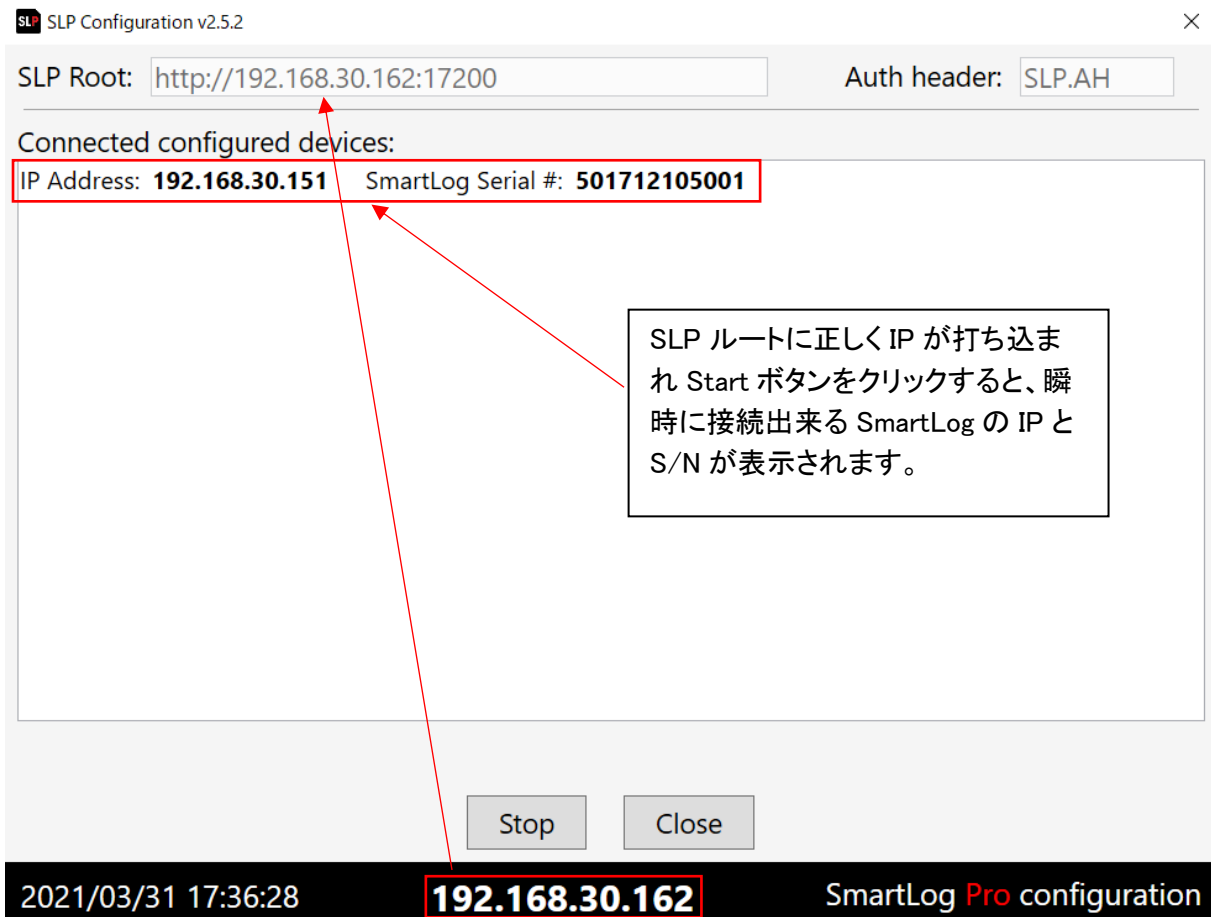
このタスクは、新しいデバイスがシステムに追加されるたび、または何らかの理由で SLP Backend の場所が変更されるたびに繰り返される必要があります。

SLP Config は、Backend の場所をローカルネットワークにブロードキャストできます(特別な UDP メッセージを使用)。アクティブな接続されたすべての SmartLog は、そのメッセージを自動的に取得し、Backend の場所を確認して構成、または再構成します。

情報！

SmartLog が SLP にイベントを送信していない場合、最も可能性の高い原因は無効であるか、SLP ルート情報が欠落しています。SLP Config を実行して修正します。

この構成手順は、[Connected devices configuration]ボタンをクリックして開始されます



最初に接続しようとする PC の IP が [Connected devices configuration] 窓の下部に表示されるので SLP ルートに正しく IP を上記の図の様に手で打ち込み、設定されていることを確認してから、[Start] ボタンをクリックします。接続されているすべてのデバイスが [Connected configured devices] リストに表示されます。

SLP ルートは実際には SLP Backend の場所ですが、/api が無いことに注意してください。

SmartLog に接続後は、[Close] ボタンを押して [Connected devices configuration] を閉じて下さい。

この構成手順は簡単なものであり、新しいデバイスで構成が必要になったとき、またはシステムが再構成されたときに時々呼び出される必要があります。

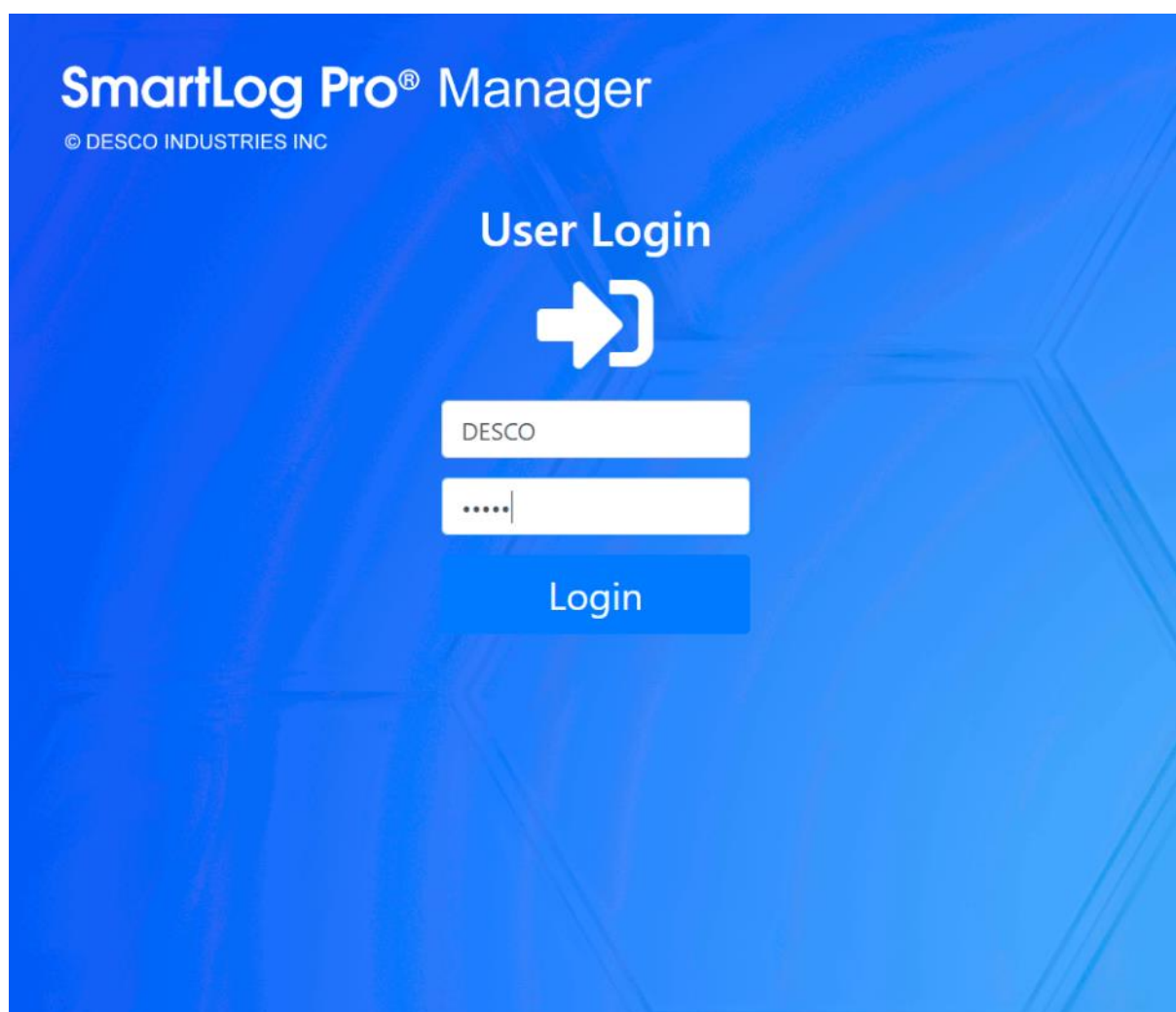
SLP Manager

SLP Manager は、SLP システムの中心となる Web ポータルです。それは情報を提供するように設計されています

- オペレーター、SmartLog、部署、シフトなどのシステムエンティティの管理等
- 多様なクエリ、レポート、アラート機能を含むシステム状態の継続的な監視
- SmartLog デバイスとオペレーターの操作パラメータの制御
- さまざまな形式 (Excel、html、テキスト、電子メール) でデータをエクスポートする
- 外部データソースからのインポート
- 全体的な SLP 操作の制御

SLP Manager は、シンプルさ、使いやすさ、パフォーマンスに特別な注意を払って実装されています。ユーザーインターフェイスは、さまざまな画面やフォームで可能な限り標準化されています。

SLP Manager を起動すると、ユーザー認証が必要になります。



すべてのインストールには、ユーザー名 **Descoco** (大文字と小文字は重要ではありません) とパスワード **descoco** (大文字と小文字は重要です!) を持つ所有者が事前設定されています。このユーザーには所有者の権限があるため、完全なシステム管理権限があります。

警告！

事前設定された DESCО 管理者を維持することは、重大なセキュリティリスクと見なされます。すぐに完全な権限を持つ新しい管理者を作成し、事前設定された DESCО 管理者を削除することをお勧めします。

1. 管理者を開きます(管理権限を持つ方)
2. 管理者の追加をクリックします
3. 新しい管理者を追加します。権限を管理者または所有者に設定します(重要です！)
4. 事前設定された DESCО 管理者をログアウトします(サイドバーメニュー)
5. 作成した管理者でログインします
6. すべて問題がない場合は、もう一度[管理者]に移動し、DESCО 管理者を削除します(赤い削除ボタン)

SLP Manager がインストールされ、SLP Backend API レイヤーに接続するように適切に構成されている場合、システムダッシュボードが開きます。

| 日時 | オペレーター | SmartLog | 母習 | 結果 |
|------------------|----------------------------------|--------------------|----|------|
| 2020/10/23 06:03 | Paul Rosas フットウエア | (159489863407) | 01 | 不合格 |
| 2020/10/21 19:34 | Kristian Aćkar スモック | Roberto's SmartLog | 04 | 不合格 |
| 2020/10/21 19:34 | (56) フットウエア、又はリストバンド (オプション) | Roberto's SmartLog | | 不合格 |
| 2020/10/21 19:34 | (85) フットウエア、又はリストバンド (オプション) | Roberto's SmartLog | | 不合格 |
| 2020/10/21 19:34 | (659) フットウエア、又はリストバンド (オプション) | Roberto's SmartLog | | 不合格 |
| 2020/10/21 16:51 | Kristian Aćkar スモック | Roberto's SmartLog | 04 | 不合格 |
| 2020/10/21 16:51 | Kristian Aćkar スモック | Roberto's SmartLog | 04 | 未テスト |
| 2020/10/21 16:51 | (859) フットウエア、又はリストバンド (オプション) | Roberto's SmartLog | | 未テスト |
| 2020/10/21 16:51 | (968) フットウエア、又はリストバンド (オプション) | Roberto's SmartLog | | 不合格 |
| 2020/10/21 02:48 | Kristian Aćkar スモック | Roberto's SmartLog | 04 | 不合格 |

| 日時 | オペレーター | SmartLog | テストの種類 |
|------------------|--------------------------------------|----------|--------|
| 2020/10/23 06:03 | Paul Rosas (159489863407) | | フットウエア |
| 2020/10/21 19:34 | Kristian Aćkar Roberto's SmartLog | | スモック |
| 2020/09/03 08:28 | Victor Arellano Victor | | リストバンド |

ナビゲーションメニューは左側のサイドバーにあり、退出ボタン、ライセンス情報、アクティブ化ボタンも含まれています。サイドバーのタイトル(SmartLog Pro Manager)は、「ホームページ」ページ(システムダッシュボード)へのリンクです。

システムダッシュボードの主要部分は「ウィジェット」で構成されています。使用可能なウィジェットは次のとおりです。

- 不明なロケーション
- 不明な SmartLog
- 最新の ESD テスト
- オペレーター最終ステータス
- ESD テスト
- 不合格率が高い SmartLog
- 不合格率が高いオペレーター

ウィジェットの表示を非表示にすることができます。詳細な説明は、システムオプション専用のセクションに続きます。

システムダッシュボードは「ライブ」であり、現在のシステムステータスを常に反映するように自動的に更新されます。

SLP Manager は、「レスポンシブ」Web アプリケーションです。小さい画面（タブレット、モバイル）にも収まります。

共通機能

SLP Manager は、一般的なマスター/詳細パラダイムを使用します。すべてのシステムエンティティの設定は、[設定]メニューにあります。



例えば、オペレーターをクリックすると、標準の「マスター」(リスト)ビューが開きます。

リストビュー

| 名前 ^ | ID | 部署 | e-mail | ESDテストの種類 | 状態 |
|-----------------|-----------------------------------|-----|---------------------------|--------------------------|----|
| Test77 | オペレーターID: 77 テストID: 77 | | | フットウェア, 又はリストバンド (オプション) | 有効 |
| Kristian Ackar | オペレーターID: 12345 テストID: 554433 | D4 | kristian.ackar@gmail.com | スモック | 有効 |
| Victor Arellano | オペレーターID: 413 | | Victor.Arellano@Desco.com | User Choice | 有効 |
| Jeffry Brake | オペレーターID: 205 | | Jeffry.Brake@Desco.com | フットウェア, 又はリストバンド (オプション) | 有効 |
| Todd Brake | オペレーターID: 312 | | Todd.Brake@Desco.com | フットウェア, 又はリストバンド (オプション) | 有効 |
| Steve Del Toro | オペレーターID: 669 テストID: 10502 | TX1 | Steve.DelToro@Desco.com | フットウェアとスモック (オプション) | 有効 |
| John Doe | オペレーターID: 112233 テストID: 112233 | | | フットウェア, 又はリストバンド (オプション) | 有効 |
| Roberto G | オペレーターID: 00044 テストID: 440 | | roberto.garayo@desco.com | フットウェア, 又はリストバンド (オプション) | 有効 |
| Roberto Garayo | オペレーターID: 445 | | | リストバンド | 有効 |
| Gregg Heckler | オペレーターID: 289 | | Gregg.Heckler@Desco.com | フットウェア, 又はリストバンド (オプション) | 有効 |

SLP Manager のすべてのリストビューは類似しており、類似した標準パーツと関連機能があります。

1. 全体的なエンティティ数を含むタイトル
2. フィルタリング
3. 追加操作 (新しいエンティティの作成を含む)
4. 表示数の増減
5. ソート機能
6. フィルタリングされたエンティティのリスト
7. エンティティ名と利用可能な操作

上記のリストの例には、すべてのコンポーネントが含まれています。他の一部のエンティティ (またはレポート) リストには、関連のない部分やコマンドが含まれていない場合があります。またリストビューは常にシームレスに適応します。

リストタイトル

リストタイトルには、関連するリストを説明するタイトルと、全体的な (フィルタリングされた) エンティティ数に関する情報や表示されているエンティティに関する情報が含まれます。



フィルタリング

すべてのリストは、さまざまな方法でフィルタリングできます。



1. 入力フィールド
2. 検索ボタン
3. フィルターボタン
4. フィルターの消去

最も基本的でありながら非常に強力なオプションは、用語によるフィルタリングです。入力フィールドに任意のテキストを入力して Enter キーを押す(または検索ボタンをクリックする)だけで実行できます。リストはすぐにフィルタリングされ、入力された用語を「含む」エンティティのみが表示されます。

例えば検索語に Jo を入力すると、John、Jonny、Bill Lojor などの名前に一致し、「jo」を含むものはすべて一致します(大文字と小文字は関係ありません)。

注意

SLP 用語マッチングはより広範囲です。エンティティごとに、一連の「用語」属性が決定されています。上記のオペレーターの場合では、オペレーターを電子メールアドレス tester@mojo.work と照合します。

用語検索は、オペレーターID、テストID、カード番号などにも影響を受けます。これを使用して、ID12345 のオペレーターをすばやく検索/確認します。

また、高度なフィルターオプションがあり、追加のフィルタリングオプションを提供します。高度なフィルターは、関連するエンティティに自動的に適応し、オペレーターの場合は次のとおりです。

フィルターオプション

条件を満たすオペレーターのみ表示:

| | |
|---|----------------------|
| 状態 | 部署 |
| <input type="text"/> | <input type="text"/> |
| <input type="button" value="有効 ×"/> <input type="button" value="無効 ×"/> | |
| グループ | シフト |
| <input type="text"/> | <input type="text"/> |

[適用する]ボタン(またはフィルターバーの検索ボタン)をクリックすると、それに応じてリストがフィルターされます。

拡張フィルターボタンは、高度なフィルタフォームの表示を切り替えます。

[フィルターの消去]ボタンは、フィルター内容をすべて消去します。これは「すべて表示」コマンドと同等です。

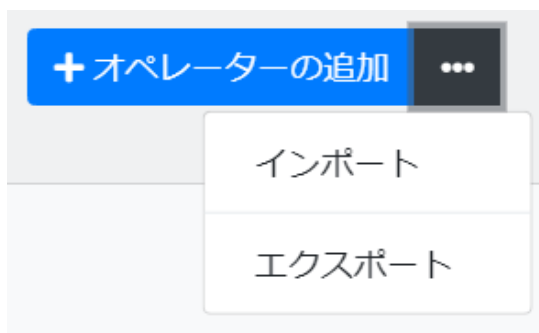
注意

フィルターボタンとフィルターの消去ボタンは、フィルターが適用されているかどうかを示します。フィルタリング(用語フィルターを含む)がアクティブな場合は青色に変わり、そうでない場合は灰色になります。

一部のリストビューには、デフォルトで決定されたフィルタリングがすでに含まれています。例えば、オペレーターリストは、アクティブなオペレーターと非アクティブなオペレーター子のみを表示するようにフィルタリングされます。

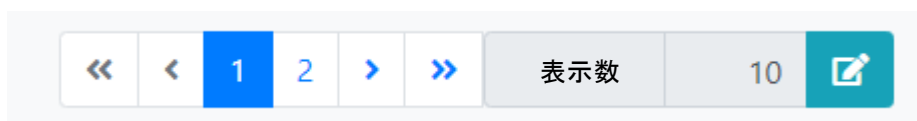
リスト操作(コマンド)

すべてのリストビューは、関連するエンティティ管理(作成、変更、削除)の開始点であるため、新しいコマンドが含まれています。一部のリストには追加のコマンドが含まれている場合があり、オペレーターの場合は次のとおりです。



ページ割り

SLP Manager は標準化されたページ割りを使用します

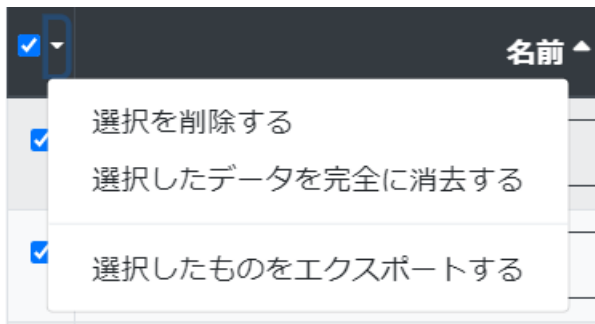


ページ割りは、必要な場合に表示されているエンティティよりも多くのエンティティがある場合にのみ表示されます。

リストヘッダー

リストヘッダーにはタイトルが含まれており、マウスカーソルとそのすぐ右にある矢印で示されているように、一部のタイトルはクリック可能です。クリック可能なタイトルは、リストの並べ替えに使用されます。タイトルをクリックすると、関連するタイトルの昇順と降順の並べ替えが切り替わります。

左端の列には、ドロップダウンメニューのあるチェックボックスがあります。



チェックボックスはすべてを選択/選択解除するために使用され、ドロップダウンメニューには現在の選択に関連するコマンドが含まれます。

エンティティリスト

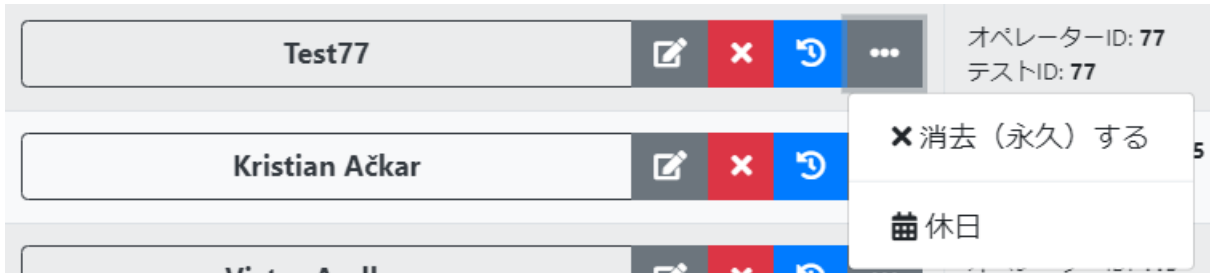
リスト本体には、事前に決定された列が表示された(フィルタリングされた)エンティティのリストが含まれているだけです。

左端の列には、個々のアイテムの選択/選択解除に使用されるチェックボックスがあります。

小さい画面では、列が多いリストがビューポートに収まらない場合があります。その場合、リストは左右にスクロール可能になります。

名前(コマンド)列

最初の列には、常にエンティティ名(または説明)と関連するコマンドのセットが含まれます



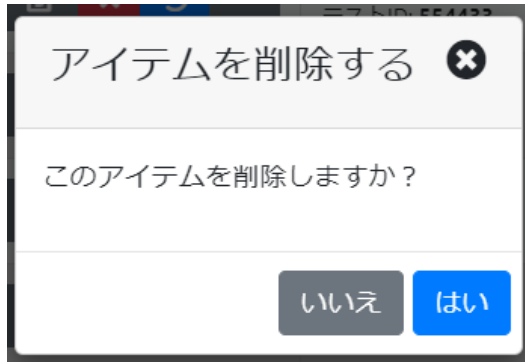
すべてのエンティティの標準操作(コマンド)は、編集(変更)、削除、プレビューです。

プレビューは常に利用できるわけではありません(複雑なエンティティとレポートの場合のみ)。オペレーターの例では、名前は実際にはボタンです。クリックすると、オペレータープレビューがポップアップ形式で開きます。

一部のリストビュー(特にレポート)では、行全体がプレビュートリガーになります。その場合、カーソルを変更するとプレビューが利用できることがわかります

オペレーターリストでは、オペレーター名の横に個別の編集ボタンがあります。単純なエンティティ(部署など)の場合、このボタンは表示されません。単純なエンティティにはプレビューオプションがないため、名前をクリックすると、代わりに編集(詳細)フォームが開きます。

削除ボタンは十字の付いた赤いボタンです。削除する場合は常に確認が求められます。



注意

SLP は、ソフト削除とハード削除の概念を使用します。ハード削除はエンティティをシステムから削除し、元に戻すことはできません。一方、ソフト削除はエンティティを削除済みとしてマークするだけで、システムに保持します。ソフト削除は、エンティティステータスを削除済みに設定することと同じです。

SLP では、ソフト削除は単に「削除」と呼ばれ、ハード削除は「消去」と呼ばれます。複雑なエンティティにはステータス属性があり、ソフト削除とハード削除の両方を使用できます。単純なエンティティにはステータスがなく、ハード削除のみが使用可能です(削除=消去)。

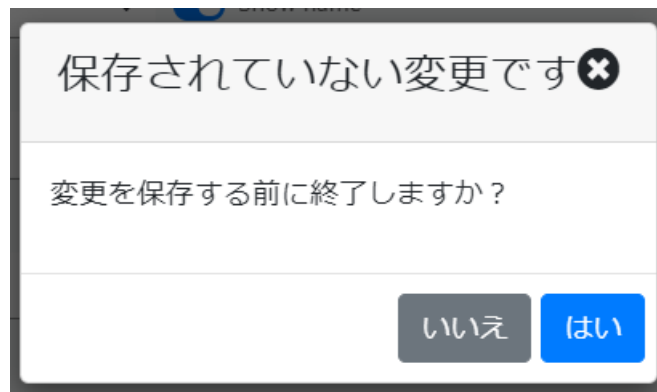
ハード削除は成功しない場合があります。エンティティを削除するとデータの整合性が損なわれる場合(エンティティはどこかで参照されます)、消去は有益なメッセージで失敗します。

一部のエンティティには追加のコマンドがあります。オペレーターの場合は(変更)履歴、消去、終了です。

詳細ビュー

エンティティは、詳細ビュー(フォーム)を使用して作成および編集されます。これらは常に、リストビューで[~の追加]または[編集]コマンドを使用して呼び出されます(詳細については、前のセクションを参照してください)。場合によっては、それらは非常に単純で、ポップアップとしてすばやく表示されることもあります。場合によっては、それらはかなり複雑で、複数のタブが含まれている可能性があります(たとえば、SmartLog フォーム等)

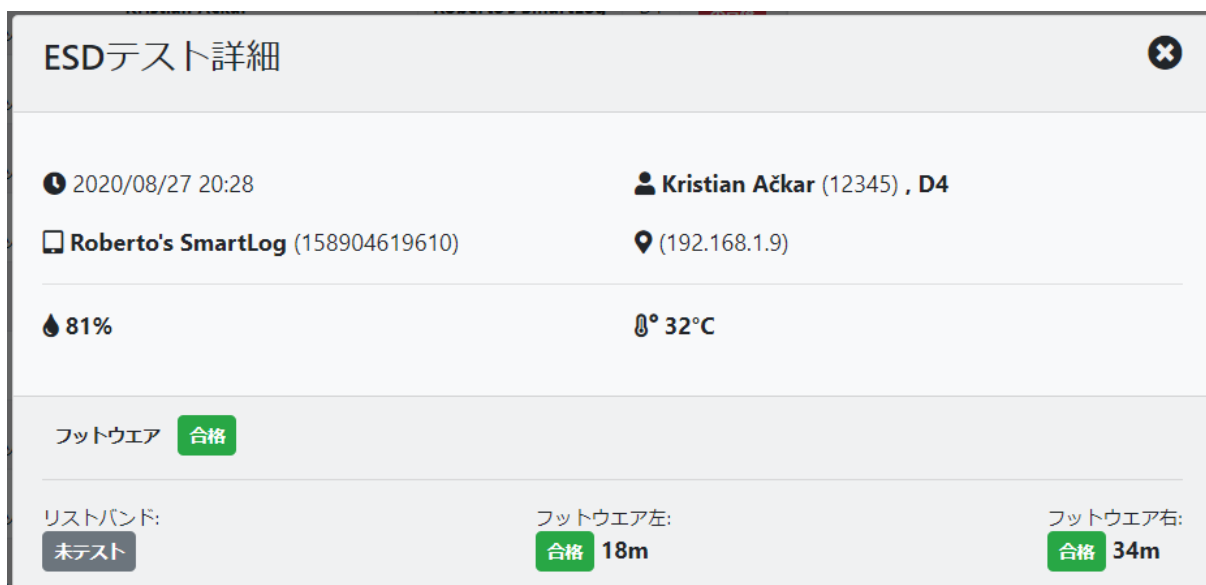
詳細ビューには、常に2つのコマンドが含まれています。戻る(灰色の左矢印)と保存(青いボタン)です。戻るコマンドは前の場所(リストビュー)に戻りますが、変更が加えられた場合はプロンプトが表示されます。



保存ボタンを押すと、変更が加えられた場合は保存され、前の場所(リストビュー)に戻ります。

プレビュー

プレビューは、もう1つの標準 SLP Manager 機能です。複雑なエンティティ、編集履歴、および次のようなさまざまなレポートで使用できます。



ESDテスト詳細

🕒 2020/08/27 20:28 👤 Kristian Ačkar (12345) , D4

📄 Roberto's SmartLog (158904619610) 📍 (192.168.1.9)

🔋 81% 🌡️ 32°C

🔌 フットウェア **合格**

リストバンド: **未テスト** フットウェア左: **合格 18m** フットウェア右: **合格 34m**

プレビューは常にポップアップウィンドウに表示され、閉じるボタン(✖の付いた灰色のボタン)を使用するか、Esc キーを押すと閉じることができます。

履歴の編集

オペレーターと SmartLog は、システムで最も重要なエンティティです。それらの両方について、SLP は完全な編集履歴を実装します(リストビューの青いボタン、上記を参照)。それをクリックすると表示されます



| 日時 | によって行われた | 実行された行動 |
|------------------|-------------|-----------|
| 2020/05/20 02:38 | DESCO Admin | 更新 |
| 2020/04/29 04:53 | DESCO Admin | 更新 |
| 2020/04/29 04:52 | DESCO Admin | 更新 |

各アイテム(行)をクリックするとプレビューが開き、その時点でのエンティティの状態が確認できます。

多くの編集があった場合、このポップアップリストはかなり長くなる可能性があることに注意してください。

エクスポート

エクスポートは、SMP Manager のすべてのレポート(アラート履歴を含む)の標準機能です。オペレーターリストビューで、フィルタリングされた(サブセット)オペレーターのセットをエクスポートすることもできます。

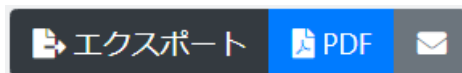
エクスポートの主な目的は、外部システムおよびアプリケーションとの標準データの交換を確立することであり、標準フォーマットをサポートします。

- Excel
- タブとカンマ区切りのテキスト
- PDF

エクスポート機能は(レポート用に)拡張されています。

- PDF プレビュー(印刷に便利)
- e-mail

すべてのレポートページとアラートページは右上隅に含まれています



エクスポートをクリックすると、カスタマイズ用のフォームが表示されます

エクスポート

SmartLog Summary

ファイルネーム

行の列名を表示する

Excel 2007+

フォーマット

表示する:

| | |
|-------------------------------------|----------|
| <input checked="" type="checkbox"/> | 列 |
| <input checked="" type="checkbox"/> | SmartLog |
| <input checked="" type="checkbox"/> | テスト回数 |
| <input checked="" type="checkbox"/> | 合格 |
| <input checked="" type="checkbox"/> | 不合格 |
| <input checked="" type="checkbox"/> | 未テスト |

取消 エクスポート

これにより、列(属性)、出力形式、ファイル名の選択が可能になります。

[エクスポート]をクリックすると、SLP Backend にレポートが作成され、作成されたファイルがダウンロードされます。

注意

エクスポートには、常に現在のフィルタリングされた選択が含まれます。標準のフィルタリングと並べ替えを使用して、目的の出力を生成します。

PDF ボタンは、エクスポートでデータ形式として PDF を選択するのと似ていますが、エクスポートした PDF ドキュメントを新しいブラウザタブで開きます。これは、拡張印刷プレビューオプションと見なすことができます。

電子メールボタンは受信者選択フォームが表示されます。



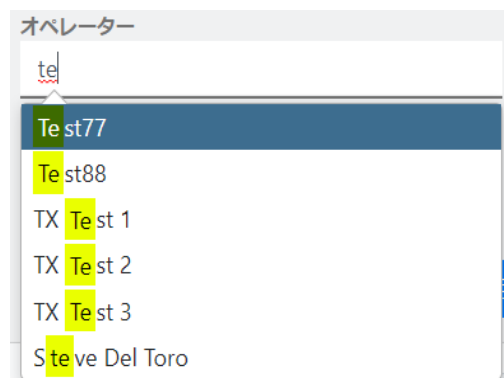
追加の電子メールには、コンマ(またはセミコロン)で区切られた複数の電子メールアドレスを含めることができます。

共通のコントロール

SLP manager は、標準の UI コントロール(ボタン、入力フィールド、ドロップダウンリスト、チェックボックス、スイッチなど)を使用しますが、いくつかの特殊なものも使用します。

オートコンプリート入力

オートコンプリートは、標準の入力フィールドと同じように見え、機能しますが、テキストボックスに入力されたテキストから反応し、表示します。



Enter キーを押すと、強調表示されたテキストで入力が「完了」します。

下矢印/上矢印を使用して強調表示された選択肢の変更や、目的の選択肢をクリックすることもできます。

注意

テキストを入力せずに、利用可能な「すべての」選択肢を一覧表示することもできます。これは、入力フィールドが空のときに下矢印を押すことによって行われます。オートコンプリートにより、利用可能なエンティティが表示されます。

オートコンプリートテキストリストは常に最初の 12 文字一致に制限されます。

テキストは字句的にソートされていません。それらはランダムな順序で表示されます。

オートコンプリートは、必要な入力を減らす時間の節約になり、ユーザーが探しているものを部分的に知っている場合に完全な可能性を示します。このコントロールは、SLP manager を介して(潜在的に大きなリストから)選択するために使用されます。

オートコンプリート入力には「マルチ」バリエーションがあり、複数の選択肢を選択することもできます。この場合、選択リストコントロールと組み合わせられます。

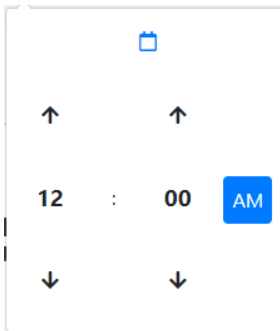
日付/時刻入力

日付または時刻の入力が必要なすべての場所で、SLP Manager は特別な入力制御を使用します。

これは、カレンダーや時計のコントロールを表示するボタンで拡張された通常の入力フィールド(日付/時刻を入力できる場所)で構成されています。

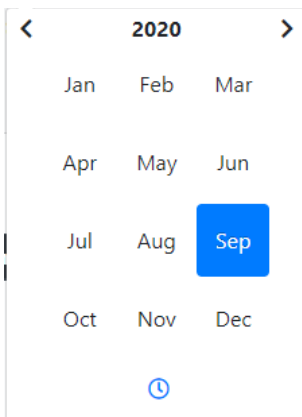
予想される入力が時間のみの場合、コントロールには Time picker のみが表示されます。日付のみの場合、Time picker は使用できません。一般的には上記のようになります。

下部の時計アイコンをクリックすると、時間入力に切り替わります



上部のカレンダーアイコンを使用して元に戻すことができます。

日付モードでは、タイトルバーの月をクリックすると年表示に切り替わります (Month picker)



(タイトルバーの)年をクリックすると、10年ビュー (Year picker) に切り替わります。

管理者

管理者

管理者は SLP Manager にアクセスできるエンティティです

ユーザー名/パスワードは、SLP 管理者ログインの資格情報を決定します。

権限はアクセス権を決定付けるため重要です。

- 管理者と所有者は、利用可能なすべての機能に完全にアクセスできます
- 主任者アクセスは制限されています(管理部署へのフルアクセス)
- ユーザーには「読み取り」アクセスのみがあります(表示はできますが、変更はできません)

ステータスをアクティブ以外に設定すると、ユーザーは事実上無効になります。

名前は厳密には必須ではありませんが、表示目的で使用すると便利です。

電子メールはオプションであり、SLP Manager のメーリングエクスポートで使用されます(「共通機能」の章の「エクスポート」セクションを参照)。

部署主任者は、管理する部署からのオペレーターに関連するすべてのアラートの電子メールを受信します。

必須入力: ユーザー名、パスワード。

オペレーター

最も重要な SLP エンティティは、SmartLog とそれらを使用するオペレーターです。

The screenshot shows a web form for configuring an operator. The form is titled "オペレーター" and has a "保存" (Save) button in the top right corner. The form fields are as follows:

| | |
|-------------------------|---|
| Test77 | |
| 名 | 姓 |
| | 有効 |
| e-mail | 状態 |
| 77 | 77 |
| オペレーターID | テストID |
| | |
| 部署 | シフト |
| | |
| Group 1 | Group 2 |
| フットウェア、又はリストバンド (オプション) | |
| テスト方法 | |
| 4 | <input checked="" type="checkbox"/> 定期的なテストのみ |
| 再テストまでの時間 | |

オペレーターID は永続的なオペレーターID です。システム内では同じ名前でもオペレーターID を複数作ることが出来ません。また、SmartLog に対してオペレーターを「識別」する必要があります(番号を入力するか、カードをスキャンするか、その他の利用可能な方法を使用します)。

テスト ID はオプションのセカンダリ識別子であり、SmartLog へのアクセスを有効にすることもできます。SmartLog は常に、入力された ID を使用可能なすべてのオペレーターID と最初に照合します。一致するものがなかった場合は、使用可能なすべてのテスト ID に対してもチェックします(このアクセスオプションが有効になっている場合)。

注意

これは厳密には必須ではありませんが、テスト ID が使用されている場合は、オペレーターID とテスト ID を別に使用することが適切である可能性があります。たとえば、オペレーターID を 6 桁の数値として使用し、テスト ID を 4 桁にすることで、あいまいさや混乱の可能性を排除できます。

名前(姓・名)は厳密には必須ではありませんが、表示目的で使用すると便利です。オペレーターが「認識」されると、SmartLog ディスプレイに名前が表示され、すべてのレポート、アラート、履歴レビューにも名前が表示されます。名前を空白のままにすると、識別しにくくなります。

必須テストは、オペレーターが SmartLog で実行する必要があるデフォルトのテストを設定します。これは、SmartLog 構成によってオーバーライドされる場合があります(多くの場合、オーバーライドされます)。

SLP がアクセス制御に使用される場合、オペレーターテストは通常しばらくの間有効です(オペレーターはテストを再度実行する必要はありません)。再テストが必要なフィールドまでの時間は、この期間を設定します。他のシナリオでは意味がありません。オペレーターを定期的なテスターとしてマークすると(定期的のみにテスト)、定期的なテストの制約がすべて削除されます。

必須入力:オペレーターID。

オペレーターが利用できる追加機能があり、状態を追跡します。オペレーターリストビュー(履歴の横にあるボタン)からアクセスできます。シンプルで標準的なわかりやすいユーザーインターフェイスを使用しており、純粹に情報提供を目的としています。

情報!

オペレーターは、接続されているすべての SmartLog とリアルタイムで同期されます。オペレーター属性への変更は、数秒で変更されます。

部署、グループ、シフト

オペレーターを編成するために使用される単純なエンティティです。それらのいずれかのオペレーターメンバーシップに基づいて SmartLog へのアクセスを制限することも可能です。これらのエンティティを管理するためのユーザーインターフェイスは非常にシンプルで直感的です。

新しい部署の追加

名前

部署主任者

+ 新しく追加する

取消 保存

グループの追加
✕

名前

備考1

備考2

取消
保存

シフトの追加
✕

名前

📅

入室時間

📅

退出時間

曜日: 日 月 火 水 木 金 土

取消
保存

休日の種類

休暇の種類は、オペレーターの休暇カレンダーで使用される名前つけされる単純なエンティティです。

休日の種類の追加
✕

名前

取消
保存

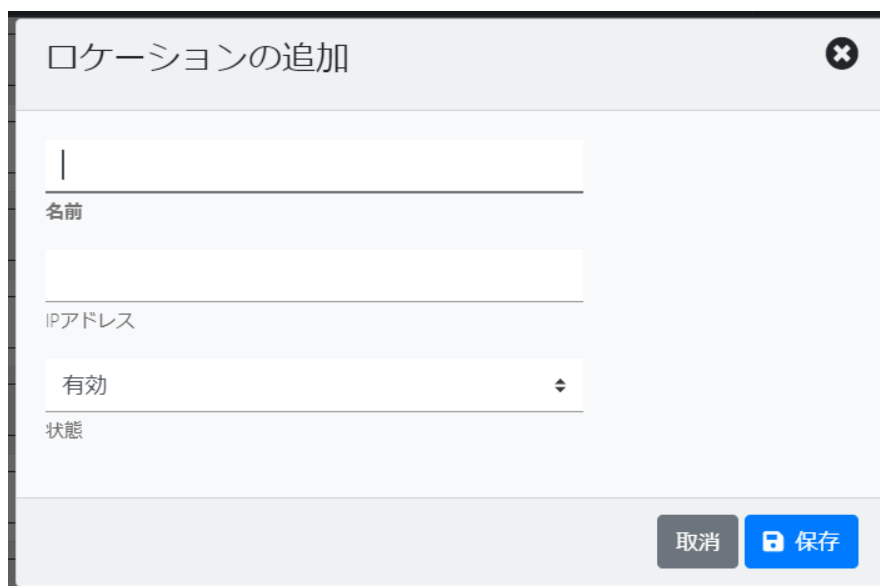
メーリングリスト

メーリングリストは、電子メール受信者のグループ化をするための標準的で便利な方法です。



ロケーション

SLP の場所は、物理ネットワークの場所 (IP アドレス) を表し、次のような名前を付けることができます。



SLP は、すべてのイベント (ESD テスト、アクセス、タイムレコーダー) のネットワークロケーションを記録します。場所に名前を付けると、レポートとプレビューがより見やすく、読みやすくなります。次に例を示します。

タイムレコーダー履歴 ✕

| | |
|---------------------------|-------------------------|
| 06/09/2020 5:05 PM | TX Test 2 (2), TX1 |
| Steve Test (158688612277) | Steve PC (192.168.1.85) |

Clock In

注意

ロケーションステータス(アクティブ/非アクティブ)は SLP によって制御されます。「ライブ」SmartLog が接続されると、その場所はアクティブになり、それ以外の場合は非アクティブになります。

システムに対して「不明」なネットワークロケーション(ロケーションとして名前が付けられていない)にアクティブな SmartLog デバイスがある場合は常に、その IP アドレスがシステムダッシュボードの不明なロケーションの下に表示されます(この機能の説明については、以下のダッシュボードに関する章を参照してください)。

SmartLogs の追加

SLP Manager は、SmartLog 構成を完全に制御します。

情報！

SmartLog 属性は、対応する接続された SmartLog とリアルタイムで同期されます。これは、SLP でのデバイス管理の主要なメカニズムです。

スマートログ詳細フォームは非常に広範囲で、考えられるすべての構成をカバーしています。

The screenshot shows the 'SmartLogの追加' (Add SmartLog) configuration page. It features a top navigation bar with a back arrow and a '保存' (Save) button. The main form area includes several sections: a '名前' (Name) input field, a '有効' (Active) status dropdown, a 'シリアル#' (Serial #) input field, and a '状態' (Status) dropdown. Below these are tabs for '一般' (General), 'アクセス' (Access), '制限事項' (Restrictions), and 'ESDテストの種類' (ESD Test Type). The '一般' tab is active, showing options for '言語' (Language) set to '英語', a 'Show name' toggle, a '言語' (Language) dropdown, a '日付/時刻表示形式' (Date/Time Format) set to 'ddd dd-MM-yyyy HH:mm:ss', a 'ブザー音量' (Buzzer Volume) dropdown, a '校正期限' (Calibration Period) section with 'タイムアウト (秒):' (Timeout (s)) set to 60, and a '管理者' (Administrator) dropdown. At the bottom, there are dropdowns for 'ESDテストの種類' (ESD Test Type) and 'オペレーションモード' (Operation Mode).

シリアル番号は永続的な同じ番号の無いデバイス識別子です。各 SmartLog には、SLPManager で使用する必要のあるシリアル番号がすでにあります。

注意

接続されているすべての SmartLog は SLP と通信し、その存在を「明らかに」します。システムにまだ存在しない場合は、SLP Manager ダッシュボードの不明なデバイスに(シリアル番号とともに)表示されます。

システムにデバイスを追加するための推奨される方法は、次の「プラグアンドプレイ」機能を使用します。

- ・SmartLog をネットワークに接続し、SLP と通信するように構成します
- ・不明なデバイスを使用してシステムに追加します
- ・わかりやすい名前を付けます

名前は厳密には必須ではありませんが、すべてのレポート、アラーム、プレビューに表示されます。

他のすべての属性をすぐに設定する必要はありません(デフォルトは最も一般的に使用される設定です)。これは、後の微調整手順のために残しておくことができます。

ステータス(アクティブ/非アクティブ)は、SLP によって自動的に制御されます。デバイスが接続されている場合は常にアクティブになり、それ以外の場合は非アクティブになります。

[SmartLog の追加]タブには、SmartLog Pro デバイス上のクライアントソフトウェアの視覚的側面を決定し、動作モード(ESD テスト、アクセス制御、タイムクロック)を定義する設定が含まれています。

[アクセス]タブでは、使用可能なアクセス方法とログインオプションを設定します。

一般 **アクセス** 制限事項 ESDテストの種類

Input enabled:

キーボード バーコード 近接カード

管理キーボードコード 管理バーコード

Login allowed:

オペレーターID テストID 不明ID Pre-test

不明ID

不明ID時の表示

また、[制限事項]タブでは、デバイスへのアクセスを制限するさまざまな制限を設定できます。部署、グループ、シフトメンバーシップ、特定の期間のみへのアクセスの制限です。

一般 **アクセス** 制限事項 ESDテストの種類

のメンバーにのみアクセスを許可:

部署 シフト

Group 1 Group 2

オペレーション時間:

入室時間 退出時間

+ 新しく追加する

ESD テストの種類タブは ESD テストのパラメータを設定します。

一般 **アクセス** 制限事項 **ESDテストの種類**

オプション:

SmartLog必須テスト ログインせずにテスト合格後リレーをアクティブにします ESDテスト結果でアナログ値を表示する

デフォルトテスト:

フットウェア、又はリストバンド (オプション)

不明ID

リミット:

750K 10M

リストバンド下限 リストバンド上限

フットプレートを有効にする

750K 35M

フットウェア下限 フットウェア上限

- 合格/不合格の制限
- デバイスのデフォルトテスト
- オペレーターのデフォルトテストによるデフォルトテストオーバーライド

クローン構成

組織内の複数の SmartLog Pro デバイスが同じ(またはほぼ同じ)構成を共有することは非常に一般的です。前述のように、SLP Manager で新しいデバイスが作成されると、構成に適した工場出荷時のデフォルトが取得されます。ただし、多数のデバイスで必要な構成がこのデフォルトと異なる場合、それらの構成の多くが同じである場合、それらを 1 つずつ構成するのは面倒な場合があります。

このプロセスを合理化するために、SLP Manager は「構成の複製」を実装します。これは実際に、構成に適用される単純で一般的なコピー/貼り付けと一緒です。

SmartLog Pro の詳細ページには、2 つの追加ボタン(構成のコピーと貼り付け)が含まれています。スクリーンショットを参照してください。コピーアンドペースト操作は通常どおりに機能します。

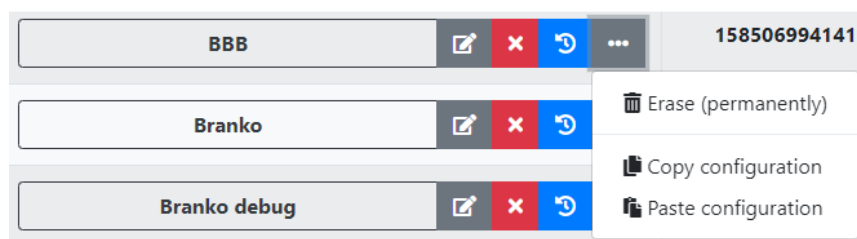
- コピーは構成をメモリ(ブラウザ)バッファにコピーします
- 貼り付けは、保存された構成を現在のデバイスに適用します

保存された(コピーされた)構成が存在しない限り、貼り付けボタンは使用できないことに注意してください。

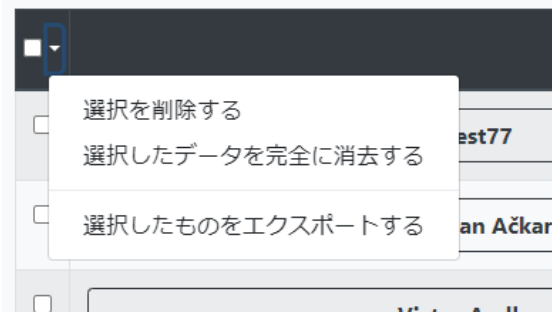
情報！

コピー/貼り付けは、標準のクリップボードを使用しません。コピーされた構成は、代わりにブラウザのローカルストレージに保存されます。これは、ブラウザを閉じて再度開いた後でも、保存された構成が利用できることを意味します。

SmartLog リストビューでは、クローン作成の仕組みがさらに便利です。すべてのアイテムには、追加のコマンドを備えた追加のボタンがあります。



これを利用して、構成をコピー（および保存された構成をそのデバイスに貼り付ける）できます。最後に、タイトルバーの選択したコマンドのドロップダウンで：



保存された構成を選択したすべてのデバイスに「複製」するコマンドがあります。この機能により、多くのデバイスに同じ構成をすばやく簡単に設定できます。最初のデバイスを構成し、構成をコピーし、他のデバイスを選択して、保存されている構成を貼り付けます。

ダッシュボード

システムダッシュボード(SLP Manager の「ホーム」画面)には、左側のサイドバーの上部にあるタイトルをクリックすることでいつでもアクセスできます。これは、システムに関する情報を提供するウィジェットで構成され、リアルタイムで更新されます。

最近のESDテスト

表示数 10

| 日時 | オペレーター | SmartLog | 部屋 | 結果 |
|------------------|---------------------|--------------------|----|-----|
| 2020/11/03 20:28 | Kristian Aćkar スモック | Roberto's SmartLog | D4 | テスト |
| 2020/11/03 20:27 | Kristian Aćkar スモック | Roberto's SmartLog | D4 | テスト |
| 2020/11/03 20:25 | Kristian Aćkar スモック | Roberto's SmartLog | D4 | テスト |
| 2020/11/03 20:04 | Kristian Aćkar スモック | Roberto's SmartLog | D4 | テスト |
| 2020/11/03 19:17 | Kristian Aćkar スモック | Roberto's SmartLog | D4 | テスト |
| 2020/11/03 19:15 | Kristian Aćkar スモック | Roberto's SmartLog | D4 | テスト |
| 2020/11/03 17:18 | Kristian Aćkar スモック | Roberto's SmartLog | D4 | テスト |
| 2020/11/03 17:18 | Kristian Aćkar スモック | Roberto's SmartLog | D4 | テスト |
| 2020/11/03 17:02 | Kristian Aćkar スモック | Roberto's SmartLog | D4 | テスト |
| 2020/11/03 17:00 | Kristian Aćkar スモック | Roberto's SmartLog | D4 | テスト |

Unknown Locations

192.168.1.110 追加

ESDテスト不合格

過去 12 時間 表示数 20

| 日時 | オペレーター | SmartLog | テストの種類 | 結果 |
|-----------------|--------|----------|--------|------|
| 不合格率が高いSmartLog | | | | |
| 過去 12 時間 表示数 20 | | | | |
| SmartLog | テスト回数 | 合格 | 不合格 | 未テスト |

不合格率が高いオペレーター

過去 12 時間 表示数 20

| オペレーター | テスト回数 | 合格 | 不合格 | 未テスト |
|-----------------|-------|----|-----|------|
| 不合格率が高いオペレーター | | | | |
| 過去 12 時間 表示数 20 | | | | |
| オペレーター | テスト回数 | 合格 | 不合格 | 未テスト |

オペレーター最終ステータス

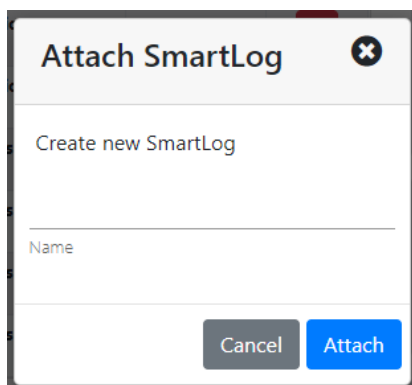
find operator 表示数 10

| 日時 | オペレーター | SmartLog | テストの種類 |
|------------------|-----------------|--------------------|-------------------------|
| 2020/11/03 20:28 | Kristian Aćkar | Roberto's SmartLog | スモック |
| 2020/10/23 06:03 | Paul Rosas | (159489863407) | フットウェア |
| 2020/09/03 08:28 | Victor Arellano | Victor | リストバンド |
| 2020/08/26 14:02 | TX Test 1 | (159840298394) | フットウェア、又はリストバンド (オプション) |

ほとんどのウィジェットは、システム操作の重要な洞察を提供するレポートです。オプションを使用して、パラメータを設定（またはダッシュボードから削除）することができます（以下のセクションを参照）。コントロールを使用して一部の設定を直接調整することもできますが、それらの変更は保持されません（[オプション]で設定されたものとは異なります）。

2つのウィジェットには、非常に重要な役割があります。不明な場所と不明な SmartLog です。ロケーションと SmartLog エンティティをそれぞれシステムに対して識別する方法を説明するセクションで、システムの場所またはデバイスに新しい（まだ保存されていない）ものが表示されると、ダッシュ

ボードに表示されます。それらを追加するための推奨される方法は、[添付]ボタンをクリックします。これにより、次のような単純なポップアップフォームが表示されます。



The image shows a dialog box titled "Attach SmartLog" with a close button (X) in the top right corner. Below the title, there is a section labeled "Create new SmartLog" with a text input field for "Name". At the bottom of the dialog, there are two buttons: "Cancel" and "Attach".

名前だけがが必要な場合。場所については、作成プロセスを完了し、SmartLog という名前のみを付けます。関連するセクションで前述したように微調整できる/必要があるデフォルトの構成を取得します。

レポート

レポートは、特定の情報のみを表示するフル機能のリストビューです。これらには、標準のフィルタリング、並べ替え、ページ付け、エクスポート機能が含まれます(関連する章の一般的な機能の説明を参照してください)。

2つのレポートは要約であり、オペレーターまたはデバイスごとに編成されたパフォーマンスに関する統計情報(平均)を提供します。

他の3つのレポートは、フィルタリングされたイベントのテスト、アクセス、クロックリストを提供します。また ESD テスト履歴には特別な機能が追加されています。

| 日時 | オペレーター | 部署 | SmartLog | 湿度 | 温度 | テストの種類 | 結果 | リストバンド | フットウェア左 | フットウェア右 |
|------------------|-----------|-----|----------------|-----|------|-------------------------|------|----------------------|---------|---------|
| 2020/08/26 14:08 | 0 | | (159840298394) | 65% | 43°C | フットウェア、又はリストバンド (オプション) | 合格 | | 10m | 8.4m |
| 2020/08/26 14:08 | 0 | | (159840298394) | 62% | 44°C | フットウェア、又はリストバンド (オプション) | 不合格 | W1: 10m W2: 3.7m | 5.3m | 40m |
| 2020/08/26 14:08 | 0 | | (159840298394) | 64% | 42°C | フットウェア、又はリストバンド (オプション) | 不合格 | W1: 10m W2: 2.4m | 20m | 13m |
| 2020/08/26 14:07 | 0 | | (159840298394) | 60% | 42°C | フットウェア、又はリストバンド (オプション) | 不合格 | W1: 450k W2: 4.3m | 19m | 4.3m |
| 2020/08/26 14:02 | 0 | | (159840298394) | 55% | 44°C | フットウェア、又はリストバンド (オプション) | 合格 | W1: 1.9m W2: 1.1m | 25m | 15m |
| 2020/08/26 14:02 | TX Test 1 | TX1 | (159840298394) | 58% | 44°C | フットウェア、又はリストバンド (オプション) | 合格 | W1: 2.0m W2: 4.0m | 4.4m | 7.3m |
| 2020/08/26 14:02 | TX Test 1 | TX1 | (159840298394) | 58% | 41°C | フットウェア、又はリストバンド (オプション) | 未テスト | | | |
| 2020/08/26 14:02 | 0 | | (159840298394) | 56% | 40°C | フットウェア、又はリストバンド (オプション) | 不合格 | | 39m | 37m |
| 2020/08/26 14:01 | (7) | | (159840298394) | 56% | 38°C | フットウェア、又はリストバンド (オプション) | 合格 | W1: 8.1m W2: 6.8m | 25m | 1.5m |
| 2020/08/26 14:01 | 0 | | (159840298394) | 55% | 38°C | フットウェア、又はリストバンド (オプション) | 合格 | | 5.6m | 21m |
| 2020/08/26 14:01 | 0 | | (159840298394) | 58% | 33°C | フットウェア、又はリストバンド (オプション) | 不合格 | W1: 1.3m W2: 1.9m | 23m | 37m |
| 2020/08/26 14:01 | 0 | | (159840298394) | 56% | 30°C | フットウェア、又はリストバンド (オプション) | 合格 | | 4.1m | 17m |
| 2020/08/26 14:01 | (7) | | (159840298394) | 54% | 30°C | フットウェア、又はリストバンド (オプション) | 未テスト | | | |
| 2020/08/26 14:01 | 0 | | (159840298394) | 55% | 28°C | フットウェア、又はリストバンド (オプション) | 不合格 | W1: 1.1m W2: 1.1m | 25m | 11m |
| 2020/08/26 14:01 | 0 | | (159840298394) | 55% | 27°C | フットウェア、又はリストバンド (オプション) | 合格 | W1: 3.4m W2: 975k | 5.2m | 2.0m |

不合格のテストごとにメモを入力して確認することができます(結果の横にある小さなメモアイコンを参照)。

イベントの備考等
✕

Note
✎

取消
保存

すべての履歴レポートには、標準のプレビュー機能(イベント行をクリックする)もあります。

ESDテスト詳細
✕

🕒 2020/08/26 14:02

📄 (159840298394)

🔥 58%

👤 TX Test 1 (1111), TX1

📍 (192.168.2.105)

🌡️ 44°C

フットウェア、又はリストバンド (オプション)
合格

リストバンド:

合格 W1: 2.0m W2: 2.0m

フットウェア左:

合格 4.4m

フットウェア右:

合格 7.3m

アラート

アラートはレポートに似ています。アラートは、標準のフィルタリング、ソート、ページ付け、エクスポートを備えた標準のリストビューであり、すぐに注意が必要な可能性のあるイベントに関する情報をレポートします。

レポートとは異なり、それらは「ライブ」でリアルタイム更新されます。

次のアラートレポートを利用できます。

- 入室アラートは、設定された期間内に、入室後の ESD テストを行わなかった場合のオペレーターのリストを表示します

- 再テストアラートは、設定された期間内に不合格後の ESD テスト合格なしの場合のオペレーターのリストを表示します
- 上限不合格アラートは、ESD テストが連続して失敗した(設定されたしきい値よりも大きい)オペレーターのリストを示します。

すべてのアラートは、発生時に SMP Backend から電子メールで送信されます。部署主任者は、オペレーターのアラートごとに自動的に電子メールを受信します。

オペレーターインポート

SLP システムを設定する際の一般的なタスクの 1 つは、オペレーターの作成(入力)です。SLP Manager には、このプロセスを大幅に高速化できる[オペレーターのインポート]機能([ツール]メニューの下)があります。インポートにはいくつかの高度な機能があり、既存のオペレーターの一括更新などの他のタスクにも使用できます(たとえば、オペレーターのグループの部門やデフォルトのテストを一度に変更するため)。

インポートプロセスの最初のステップは、入力ファイルを選択することです。

オペレーターのインポート

使用されるデータ

選択 ×

最初の行には名前が含まれています

最も一般的な表形式のデータソース(Excel、テキストファイル、コンマ、またはタブ区切りファイル)がサポートされており、最初の行に列名を含めるかどうかを指定することもできます。

ファイルを選択すると、含まれているデータの完全なプレビューが[プレビュー]タブに表示されます。

Preview
Options
Import

| FirstName | SecondName | eMail | CardId | OperatorId | Department | Shift | Note1 | Note2 |
|-----------|------------|---------------------------|--------|------------|------------|-------|--------|-------|
| Mirko | | | 1234 | | A | | | |
| Kristian | Ačkar | kristian.ackar@gmail.com | 12345 | | D4 | | | |
| Victor | Arellano | Victor.Arellano@Desco.com | 413 | | A | | | |
| Jeffry | Brake | Jeffry.Brake@Desco.com | 205 | | A | | B | |
| Todd | Brake | Todd.Brake@Desco.com | 312 | | B | A | A | |
| Steve | Del Toro | Steve.DelToro@Desco.com | 669 | 10502 | TX1 | A | A | B |
| Roberto | Garayo | | 445 | | | A | | B |
| Gregg | Heckler | Gregg.Heckler@Desco.com | 289 | | B | A | | |
| Paul | Rosas | Paul.Rosas@Desco.com | 418 | | | | | |
| Reyes | Sanchez | Reyes.Sanchez@Desco.com | 10528 | | | | | |
| Branko | Špiljak | branko.spiljak@gmail.com | 781523 | 0001 | D1 | First | Lurker | Macro |
| Matija | Špiljak | | 666 | | D2 | | | |

(上記の例では、最初の行に列名が含まれていました)。

データプレビューは、特に列名が最初の行で指定されていない場合に非常に役立ちます。また、以下で説明する列マッピングの定義にも役立ちます。タブを切り替えることはいつでも可能です。実際に、オプションとプレビューを切り替えることで、適切な列マッピングを決定したり、インポートをトリガーする前にすべてを再確認したりすることがよくあります。

インポート手順の次のステップは、列のマッピングとデフォルト値を定義することです。これは[オプション]タブで行います。

| Column | Import to |
|----------|----------------------|
| Column1 | First Name |
| Column2 | Second Name |
| Column3 | --- not imported --- |
| Column4 | --- not imported --- |
| Column5 | Operator ID |
| Column6 | Test ID |
| Column7 | First Name |
| Column8 | Second Name |
| Column9 | e-mail |
| Column10 | Department |
| Column11 | Shift |
| Column12 | Group 1 |
| | Group 2 |
| | Required test |
| | Test Valid |
| | Periodic |
| | Status |
| | --- not imported --- |
| | --- not imported --- |

上記の例は、最初の行にフィールド名が含まれていなかった場合を示しています。この場合、列には Column1、Column2 などの名前が付けられます。

最初の行にフィールド名が含まれている場合、SLP Manager は最適な列マッピングを見つけようとしてくれます。たとえば、列の名前が「名 1」の場合、[名 1が]フィールドにマップされます。このマッチングは完全ではなく、一部の列を一致させたり、一部の列を間違ったフィールドに一致させたりできないことに注意することが重要です。一致を注意深くチェックし、欠落しているマッピングを手動で追加したり、間違ったマッピングを修正したり、インポートすべきでない列のマッピングを削除したりすることをお勧めします。

一部の行には標準列の値がないことがよくあります。このような状況でデフォルトを定義することは可能です。

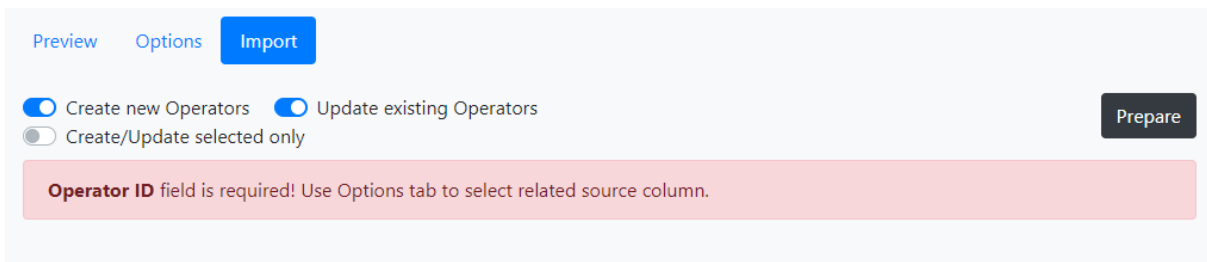
注意

デフォルトでは、ステータス、デフォルトテスト、再テスト期間、定期テスターフィールドのみがデフォルトを適用するためにマークされています。たとえば、部署も適用するには、部署の値を入力するだけでなく、その横にあるチェックマークをオンにする必要があります。チェックされているデフォルトのみが適用されます。

デフォルトの適用は、主に欠落している値を埋めることを目的としていますが、デフォルトを常に(インポートされたすべてのオペレーターに)適用することもできます。この機能は、既存のオペレーターのグループの属性を変更するときに特に役立ちます。

たとえば、すべて(または一部)のオペレーターのデフォルトテストを変更するには、最初に前述のようにオペレーターリストビューでエクスポートを実行してから、デフォルトテストのデフォルト(新しい目的の値)を使用してすべてに適用しながらこのファイルをインポートする必要があります。

最後のステップはそれ自体をインポートすることですが、その前に SLP Manager は最後のチェックであるインポートの準備を提供します。これは、[インポート]タブで[準備]ボタンをクリックして実行します。



The screenshot shows the 'Import' tab selected in the SLP Manager interface. There are three radio button options: 'Create new Operators' (checked), 'Update existing Operators' (checked), and 'Create/Update selected only' (unchecked). A 'Prepare' button is located on the right. A red error message is displayed at the bottom: 'Operator ID field is required! Use Options tab to select related source column.'

インポートに重要なエラーがあった場合、SLP Manager は上記の例のように適切なエラーメッセージを表示します。続行するには、重大なエラーを修正する必要があります。このような状況は、[オプション]に戻り、マッピングを調整してから、もう一度[確認]をクリックすることで解決されます。インポートデータはメモリに保持されるため、必要に応じて何度でもタブを切り替えることができます。

最後に、すべての重大なエラーが修正されると、確認はインポートされたデータがどのように見えるかを示します。

Preview Options **Import**

Create new Operators
 Update existing Operators
 Create/Update selected only

Prepare **Import**

| CREATE | | | | | | | | | | |
|-------------------------------------|----------------|--------------------------------------|--------|------------|-------|--------|--------|--------|---------------------------|----------|
| <input type="checkbox"/> | Name | ID | e-mail | Department | Shift | Note 1 | Note 2 | Status | Required test | Test Val |
| <input type="checkbox"/> | Contractor 101 | Operator ID: 20106 Test ID: 20106 | | | | | | Active | Foot and Wrist (Optional) | 4 |
| <input checked="" type="checkbox"/> | Contractor 118 | Operator ID: 20113 Test ID: 20113 | | | | | | Active | Foot and Wrist (Optional) | 4 |
| <input checked="" type="checkbox"/> | Chris Bartley | Operator ID: 20183 Test ID: 20183 | | | | | | Active | Foot and Wrist (Optional) | 4 |
| <input type="checkbox"/> | Bill Bartley | Operator ID: 20171 Test ID: 20171 | | | | | | Active | Foot and Wrist (Optional) | 4 |
| <input checked="" type="checkbox"/> | Andrea Bartley | Operator ID: 20137 Test ID: 20137 | | | | | | Active | Foot and Wrist (Optional) | 4 |
| <input type="checkbox"/> | Will Bartley | Operator ID: 20150 Test ID: 20150 | | | | | | Active | Foot and Wrist (Optional) | 4 |
| <input type="checkbox"/> | Dianne Bartley | Operator ID: 20190 Test ID: 20190 | | | | | | Active | Foot and Wrist (Optional) | 4 |
| <input type="checkbox"/> | Darin Bratland | Operator ID: 20128 Test ID: 20128 | | | | | | Active | Foot and Wrist (Optional) | 4 |
| <input type="checkbox"/> | Roger Brown | Operator ID: 20160 Test ID: 20160 | | | | | | Active | Foot and Wrist (Optional) | 4 |
| <input type="checkbox"/> | Kelly Canfield | Operator ID: 20186 Test ID: 20186 | | | | | | Active | Foot and Wrist (Optional) | 4 |

[選択したもののみを作成/更新]オプションが選択されている場合は、入力データのサブセット(選択済み)のみをインポートすることもできます。

[新しいオペレーターの作成]と[既存のオペレーターの更新]の両方が選択されている場合、この最終プレビューには、作成されるオペレーターと更新されるオペレーターが別々のテーブルに表示されます。

インポートを開始すると元に戻せないため、最後のチェックとして準備が重要です。列が適切に一致しているかどうか、すべてのフィールドに意味のある値があるかどうかなどを確認することをお勧めします。何か問題がある場合は、オプションに切り替えて変更し、すべてが正しくなるまで[確認]を再度実行できます。

自動オペレーターインポート

SLP Manager には、ファイルからのオペレーターの自動インポートを可能にする自動オペレーターインポート機能 ([ツール] メニューの下) があります。

この機能を機能させるには、オペレーターデータを含むインポートファイルが配置されるデータフォルダと、日付と日付を含む名前でも自動的にインポートされたファイルのコピーがバックアップされるバックアップフォルダを作成して指定する必要があります。また、データが取り込まれるとデータフォルダにあったファイルが無くなり、バックアップフォルダへ移るので、注意して下さい。

最も一般的な表形式のデータソース (Excel、テキストファイル、コンマまたはタブで区切られたファイル) がサポートされています。[データ] タブで、最初の行に列名を含めるかどうかを指定することもできます。

自動オペレーターインポート

オプション データ 履歴

有効

C:\SLP SE/

データフォルダー

C:\Backup/

バックアップフォルダー

新しいオペレーターを作成する

既存のオペレーターを更新する

登録の無い部署、シフト、グループを作成する

新しいオペレーターの作成、既存のオペレーターの更新、一致しないデータの作成だけを行うかどうかを指定できるオプション等が用意されています。このオプションを [アクティブ] に設定すると、データフォルダに配置したすべてのデータファイルが数秒以内にプログラムにインポートされます。

ファイルのインポート方法は、選択したサンプルファイルに基づいて [データ] タブでフィールドがどのように定義されているかによって決まります。このタブで列マッピングとデフォルト値を定義することが重要です。

このタブで設定を確定する前に、別のブラウザウィンドウまたはタブで通常の [オペレーターのインポート] セクションを開き、[プレビュー] タブを使用してデータ ファイルをテストすることができます。

自動オペレーターインポート 保存

オプション データ 履歴

表示する
データファイル

最初の行には名前が含まれています

| 列 | にインポートする |
|-------------|-------------------------------|
| Operator ID | オペレーターID |
| 名前1 | --- インポートされてません --- |
| 名前2 | オペレーターID |
| e-mail | テストID 名前1 名前2 e-mail |
| テストID | 部署 シフト |
| 部署 | グループ1 グループ2 |
| シフト | テスト方法 テスト有効 |
| グループ1 | 定期的 状態 |
| グループ2 | --- インポートされてません --- |
| 状態 | --- インポートされてません --- |
| テスト方法 | --- インポートされてません --- |
| テスト有効 | --- インポートされてません --- |
| 定期的 | --- インポートされてません --- |

デフォルト
 常に適用する 欠落している場合にのみ適用する

有効

部署

シフト

グループ1

グループ2

フットウェア、又はリストバンド (オプション)

テスト方法

4

再テストまでの時間

定期的なテストのみ

最初の行にフィールド名が含まれている場合、SLP Manager は最適な列マッピングを見つけようとします。たとえば、列の名前が「名 1」の場合、それは [名 1] フィールドにマップされます。このマッチングは完全ではなく、一部の列を一致させたり、一部の列を間違ったフィールドに一致させたりできないことに注意することが重要です。一致を注意深く確認し、不足しているマッピングを手動で追加し、間違ったマッピングを修正し、インポートすべきでない列のマッピングを削除することを常にお勧めします。

一部の行には標準列の値がないことがよくあります。そのような状況では、デフォルトを定義することができます。

注意

デフォルトでは、ステータス、デフォルト テスト、再テスト期間、定期テスト担当者のフィールドのみがデフォルトを適用するようにマークされています。例えば、部署も適用するには、部署の値を入力し、その横にあるチェックマークもオンにする必要があります、チェックされているデフォルトのみが適用されます。

デフォルトの適用は、主に欠損値を埋めることを目的としていますが、デフォルトを常に（インポートされたすべてのオペレーター）適用することもできます。

自動オペレーターインポート 保存

オプション データ **履歴**

インポート履歴

を表示しています 1-5 の 13

« < 1 2 3 > » 表示数 5

| インポート時間 | インポートファイル | 作成した | 更新した | 失敗した | エラー |
|---------------------|--|------|------|------|--|
| 2021/05/26 13:13:25 | C:\SLP SE/Operator.xlsx | 0 | 8 | 0 | |
| 2021/05/26 13:10:04 | C:\SLP SE/Operator.xlsx | 0 | 8 | 0 | |
| 2021/05/26 12:00:20 | C:\SLP SE/Operator.xlsx | 0 | 0 | 8 | row 2: 入力文字列の形式が正しくありません。 row 3: 入力文字列の形式が正しくありません。 row 4: 入力文字列の形式が正しくありません。 row 5: 入力文字列の形式が正しくありません。 row 6: 入力文字列の形式が正しくありません。 row 7: 入力文字列の形式が正しくありません。 row 8: 入力文字列の形式が正しくありません。 row 9: 入力文字列の形式が正しくありません。 |
| 2021/05/25 17:54:01 | C:\SLP SE/20210525175141-Operator.xlsx | 0 | 0 | 0 | Columns mismatch. |
| 2021/05/25 17:51:41 | C:\SLP SE/Operator.xlsx | 0 | 0 | 0 | Columns mismatch. |

自動インポート中にエラーが発生した場合、SLP Manager は上に示すように、[履歴] タブに適切なエラーメッセージを表示します。ファイルを適切にインポートするには、エラーを修正する必要があります。エラーは、[オプション] または [データ] タブに戻り、マッピングまたは設定を調整するか、データ ファイルをオペレーター情報で変更することで解決します。

次に、新しいオペレーターデータファイルをデータフォルダに配置し、数秒後に[履歴]タブで結果を確認するだけで、自動インポートを再度テストできます。

オプション

SLP Manager は、特定のシステムオプションを制御します。SLP Manager 自体の一部の表示面を設定および変更することは可能ですが、一部の Backend 機能の操作を制御することもできます。

注意

[オプション]ページで行ったすべての変更は、明示的に保存する必要があります。

SLP Manager に関連する設定は、[ディスプレイ]タブにグループ化されています。

システムオプション 保存

ディスプレイ オプション レポートスケジュール

一般

20 管理者リストのページサイズ 温度表示 °F

ランディングページウィジェット

| | 表示数 | リフレッシュ (秒) | 過去 (時間) |
|---|-----|------------|---------|
| <input checked="" type="checkbox"/> 最近のESDテスト | 10 | 10 | |
| <input checked="" type="checkbox"/> オペレーター最終ステータス | 10 | 10 | |
| <input checked="" type="checkbox"/> ESDテスト不合格 | 20 | 15 | 12 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 不合格率が高いSmartLog | 20 | 15 | 12 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 不合格率が高いオペレーター | 20 | 15 | 12 |

アラート

| | 表示数 | リフレッシュ (秒) |
|-----------------|-----|------------|
| 入室後のESDテストなし | 20 | 15 |
| 不合格後のESDテスト合格なし | 20 | 15 |
| 上層不合格数 | 20 | 15 |

ここでは下記を制御することが可能です:

温度単位 (摂氏または華氏)

- 温度単位 (摂氏または華氏)
- [設定]セクションのすべてのリストビューのページサイズ (行数)
- ランディングページウィジェット (ページサイズ、ライブ更新期間、不合格を示すウィジェットの期間)
- ランディングページウィジェットのオン/オフの切り替え
- アラートビューの制御 (ページサイズとライブ更新期間)

[オプション]タブには、Backend の操作を制御する設定が含まれています。

システムオプション 保存

ディスプレイ
オプション
レポートスケジュール

アラート

アラートを無効にするには0に設定します

入室後のESDテストなし (秒)

不合格後のESDテスト合格なし (秒)

上限不合格数 (不合格回数)

データベース

(月) より古いイベントを廃棄します (イベントを永久に保持するには0に設定します)

メールサーバー

無効にするにはサーバーを空白のままにします

ポート番号

SSLを有効にする

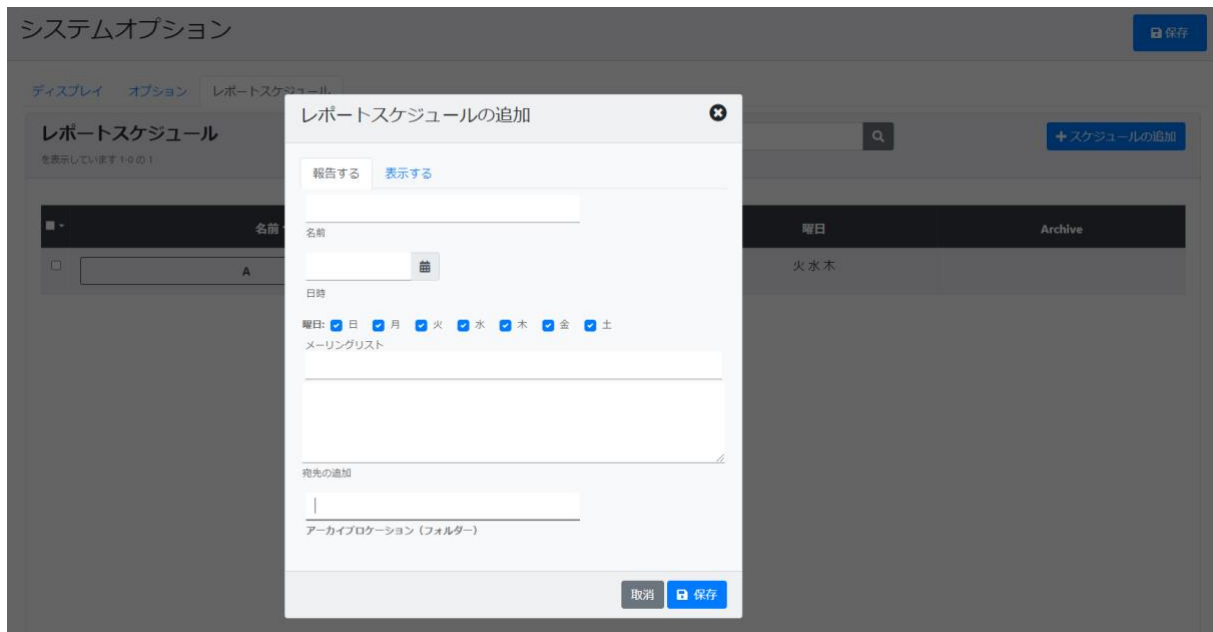
SLP Backend は、部署マネージャー(アラート)、選択された管理者(レポート)、さまざまなビューからのオンデマンド(前に説明したように)に電子メールを送信する場合があります。メーリング機能を利用できるようにするために、SLP は SMTP メールサーバーを使用します。SMTP サーバーに必要なすべてのパラメーターは、このタブで使用できます。これは、通常、ネットワーク/システム管理者によって実行される高度な機能です。

SLP は、データを格納するためのシステムデータベースを維持します。内部的には SLP Backend からのみ直接アクセスされ、データサービスは API レイヤーからクライアントに提供されます。ほとんどの場合、時間の経過とともに予想されるデータベースの増加は問題になりませんが、接続された SmartLog が多数ある大規模なシステムでは、時間の経過とともに数百万または数十億もの ESD テストが蓄積される可能性があります。SLP は、この状況に対する保護手段を選択しました。このタブで、イベント(ESD テスト、アクセス、クロックイベント)を保存する期間を月単位で設定できます。設定された期間より古いすべてのイベントは、データベースから自動的に削除されます。これは Backend でサイレントに発生し、元に戻すことはできません。

最後に、ここでアラートを制御することもできます。構成は簡単で、各アラートの「キー期間」を設定することで構成されます。ここで特定のアラートを完全に無効にすることもできます。

[レポートスケジュール]タブは、SLP Backend から自動レポートを送信するためのスケジュールを維持します。

43



このタブには、スケジュールを表示/フィルタリングするための標準のリストビューが含まれており、スケジュールの作成/編集は非常に簡単です

SLP は、メールによる (HTML) レポートの送信を実装します。1 つ以上のメーリングリストを選択することは可能ですが、上記のフォームにメールを追加することもできます。

上記のフォームでアーカイブの場所を指定することにより、レポートをファイルとしてローカルコンピューターに保存することもできます。アーカイブの場所はフルパスとして入力する必要があります。有効な例は、C:/ Desco / Reports / Archive または D:¥ SLP Reports ¥です。

レポートの作成は SLP Backend によって処理されます。アーカイブフォルダが存在しない場合、Backend がそれを作成します。保存されたレポートは、常に 2 つの形式で提供されます。

- HTML -電子メールで送信されるレポートに似ています
- TXT -レポートデータを含むタブ区切りのテキストファイル (Excel などへのインポートに適しています)

この単純なメカニズムも非常に柔軟です。異なるタスクを実行する複数のレポートを作成することができます (同時にトリガーされる場合でも)。電子メールを送信するものもあれば、後で確認または使用するためにレポートをアーカイブするものもあれば、両方を行うものもあります。

言語の変更

SLP Manager は翻訳されており、いくつかの言語で利用できます。言語の選択はサイドバーから行われます。



ソフトウェア アクティベーション

SLP を操作するには、有効なライセンスが必要です。インストール時に、SLP は試用ライセンスで実行され、有効性はサイドバーに表示されます。



注意

ライセンスは、SLP Manager に表示され、維持されている場合でも、SLP Backend に関連しています。ライセンスの有効期限が切れると、SLP 全体が機能しなくなります。

SLP ソフトウェアをアクティブ化するには、[Activate] ボタンをクリックします(上の画像を参照)。

SLP アクティベーション ✕

製品番号
8T60-6296-3M01-18M6-F8A1

このIDをDESCOに送信し、取得したアクティベーションキーを以下に入力します

アクティベーションキー

取消 Activate

このフォームには、一意の製品 ID が含まれています。この ID を EMIT 担当者に送信し、アクティベーションキーを取得します。それぞれのフィールドにアクティベーションキーを入力し、[アクティベート]をクリックします。

入力したアクティベーションキーが有効だった場合、SLP は永続的にアクティベートされます。

EMIT から拡張トライアルキーを取得することも可能ですが、有効期間は限られています。詳細については、DESCO JAPAN の担当者にお問い合わせください。

DESCO ASIA

DESCO JAPAN 株式会社

〒289-1143

千葉県八街市八街い 193-12

Tel: 043-309-4470

<http://www.descoasia.co.jp>